

市民フォト

No.10

●昭和57年9月1日発行

ソフトボール。打球音が快く響く。
白球を追って懸命に動き、走る。練習はきついが、子どもたちは明るい。
彼女も、ついつい引きこまれてバントの指導に乗りだす。(人物はミス鹿児島の西原徳子さんと、宇宿スポーツ少年団のみなさん)

鹿児島



もくじ

私の作品

特集・57全国高校総体 3

若人の祭典、はつらつと 4 ~ 5

情熱と闘志燃やして 6 ~ 8

裏方さん、ありがとう 9

人物登場(スーザン・ゲイツさん) 10 ~ 11

ぼくらの施設めぐり(北部清掃工場) 12 ~ 15

飛んで21年(鴨池・郡元) 16 ~ 17

市民のひろば 18 ~ 20

奥様こんにちは(白水順子さん) 21

あなたのフォトサロン

曾我さんの傘焼き 22 ~ 23

サンライフプール 24 ~ 25

わたしの散歩道(伊敷町 甲突川河畔) 26 ~ 27

カメラトピックス 28 ~ 29

あの店この店(岸尾武道具店) 30

市立美術館(象嵌磁木の葉文花瓶) 31



中央公民館

山下小学校五年
渡辺聰美

「古い昔風のどつしりした感じを
まわりの色をどうするかでした。

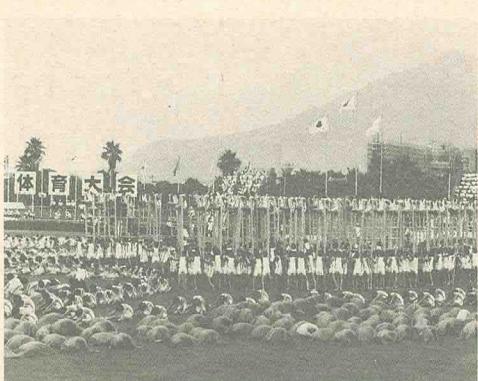
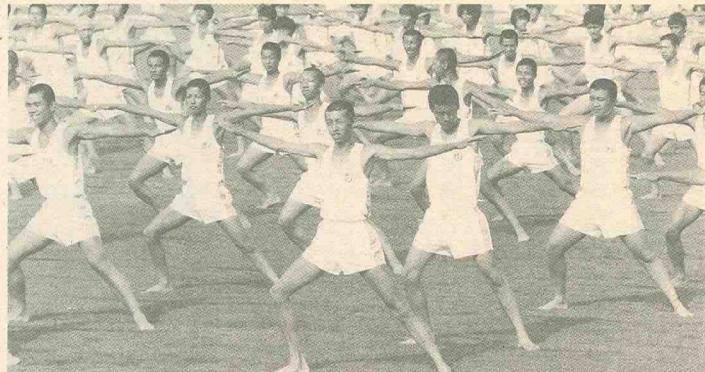
こここの角度から描いたら、はく力
茶色系統にしたわけは、茶色だつ

がでうだな」と考えて、中央公民
館を選びました。案外、よく描け
たら、もつとちがつたおもしろさ
がでるのではないかと思ったから
です。できあがつた時は、とても
たと思います。

一番大変だったのは、公民館の
うれしいでした。

躍動する美、どか、

特集 ●'57全国高校総体 ●



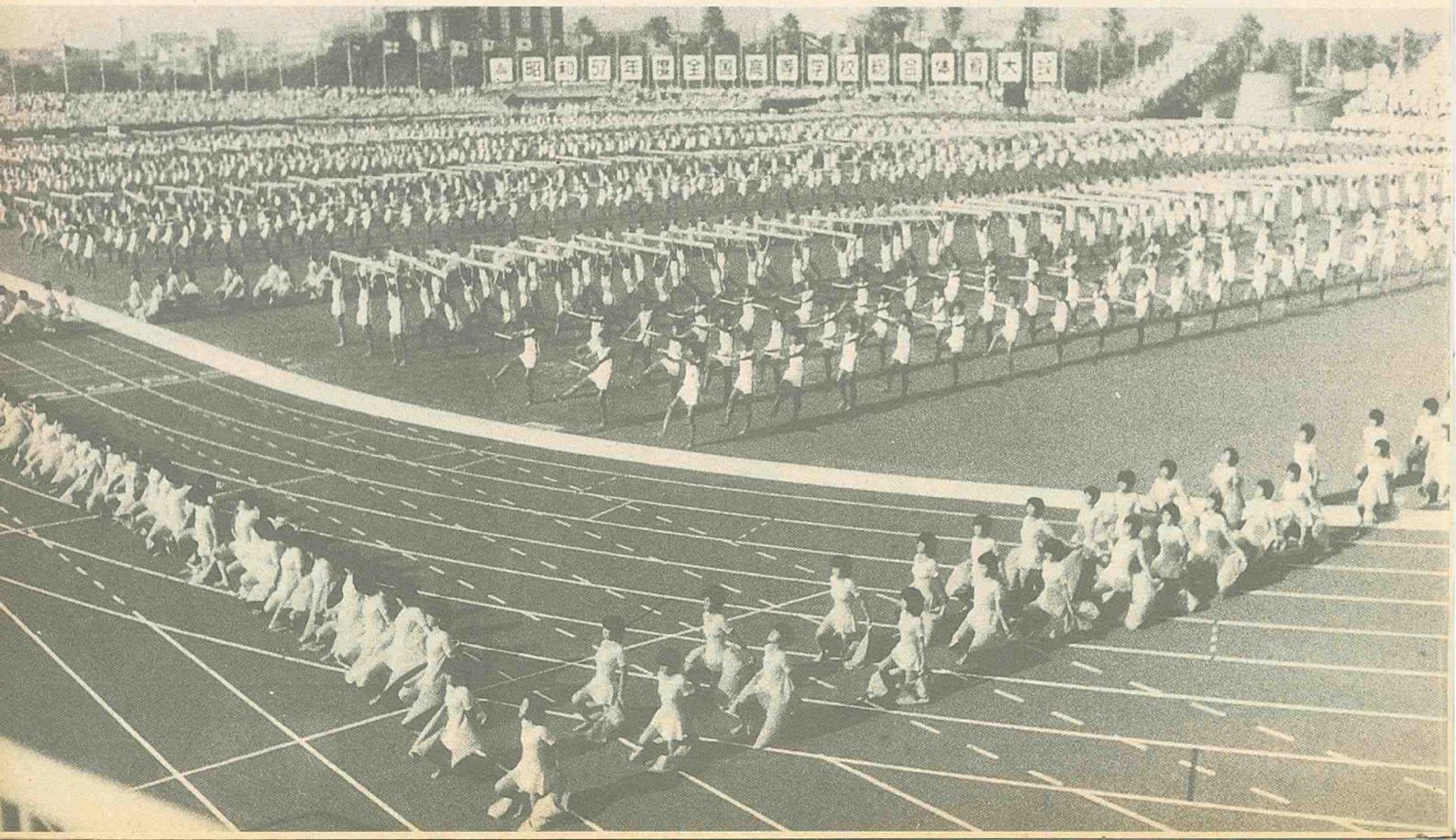
総合開会式の華

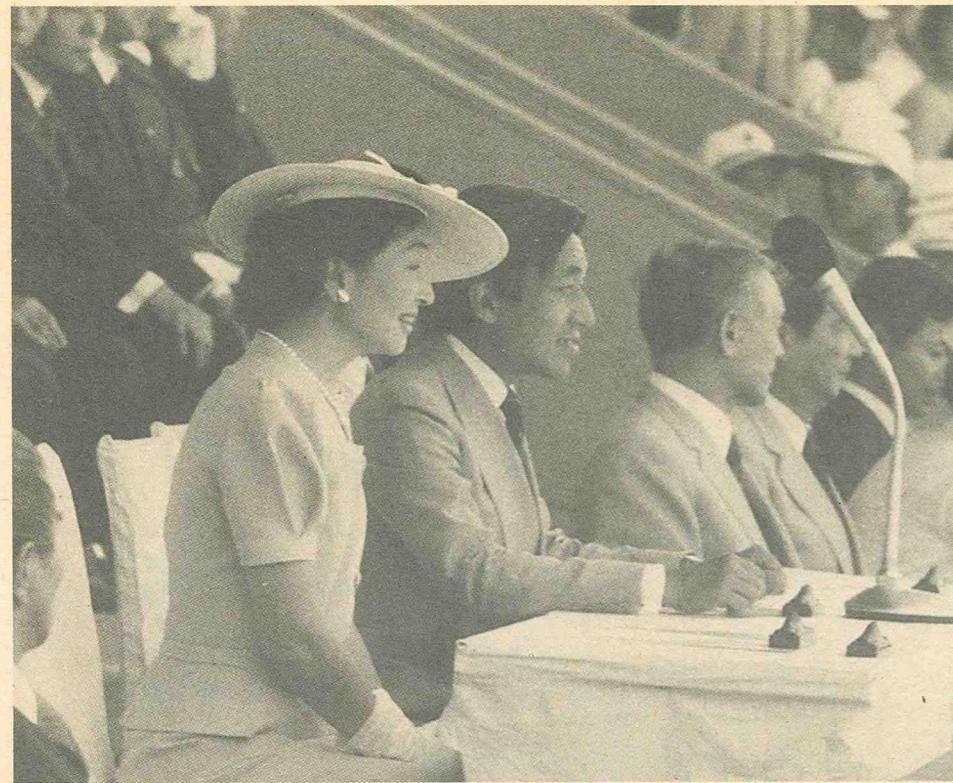
二千四百人の
男女高校生による集団演技

「ただいまから昭和五十七年度全
国高等学校総合体育大会総合開会
式を…」「開式を告げる澄んだ声。
瞬間、ファンファーレが高らかに
響きわたり、花火がとどろいた。

「南国に競え若人 はぐくめ友
情」をスローガンに、全国から約三万
三千人の選手・役員が集う「高校生
のスポーツの祭典」。

皇太子殿下、同妃殿下、礼宮さ
まをお迎えして、八月一日、県立
鳴池陸上競技場は炎熱のなか、若
人のさわやかさが渦巻いた。そし
てスタンドを埋めた約一万六千人
の観客の温かい拍手が、若人の友
情の輪をさらに大きく広げた。





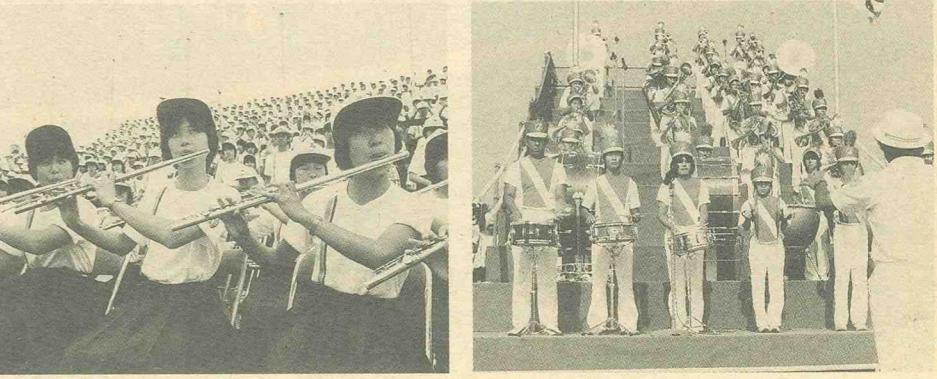
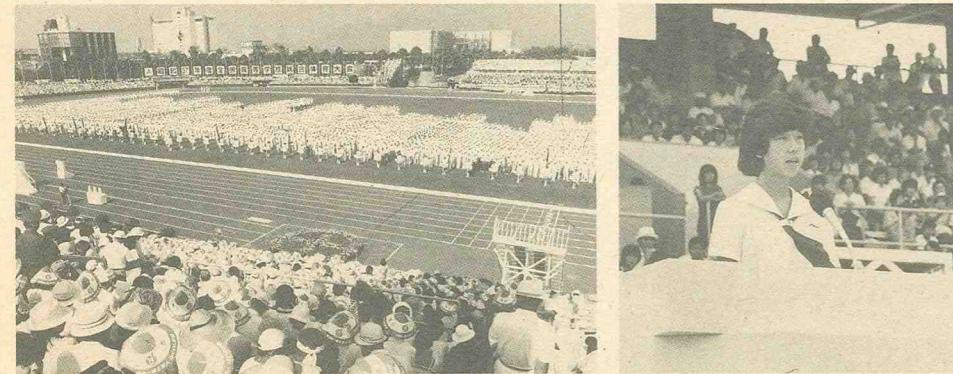
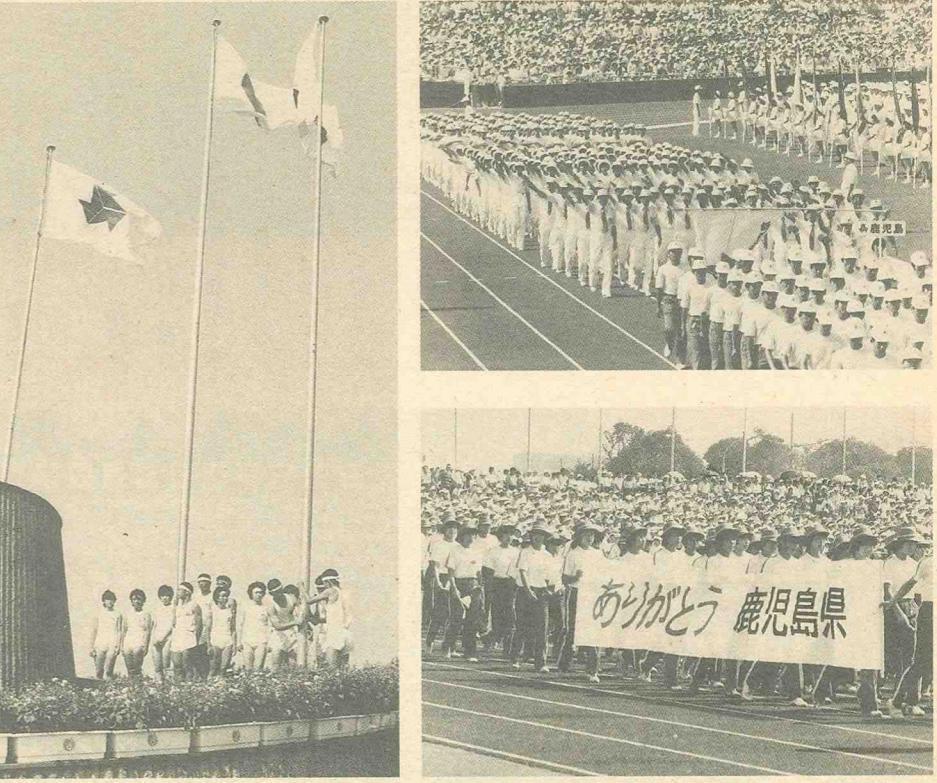
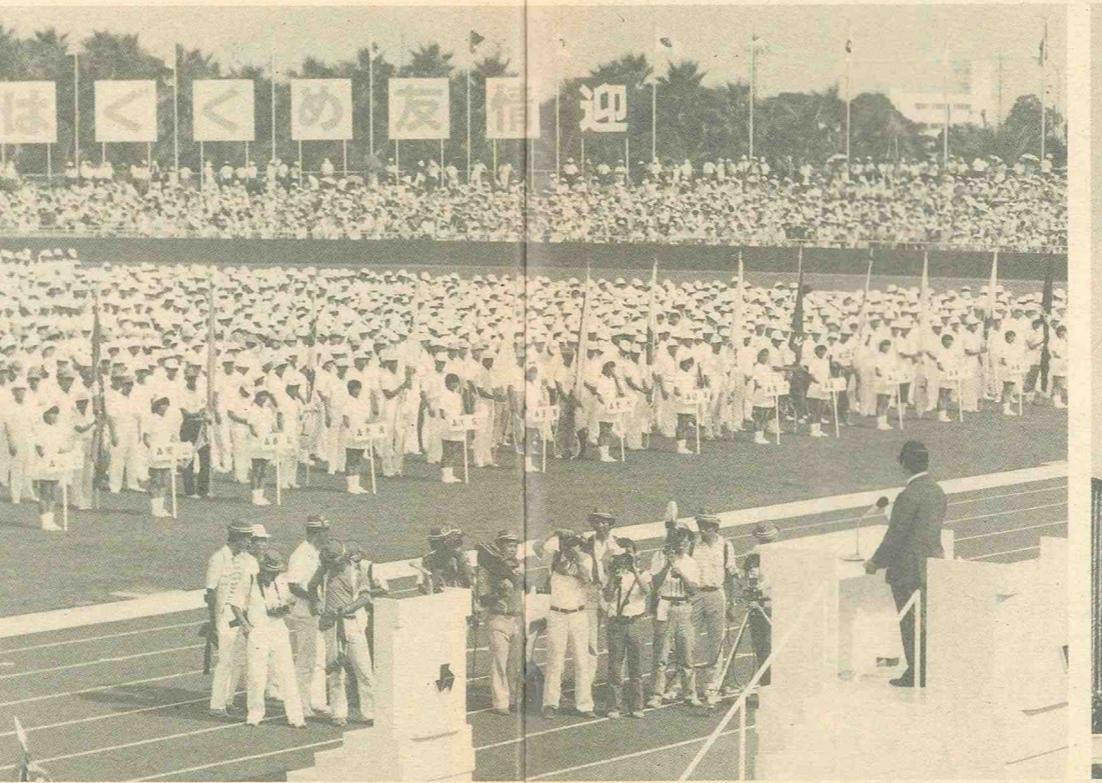
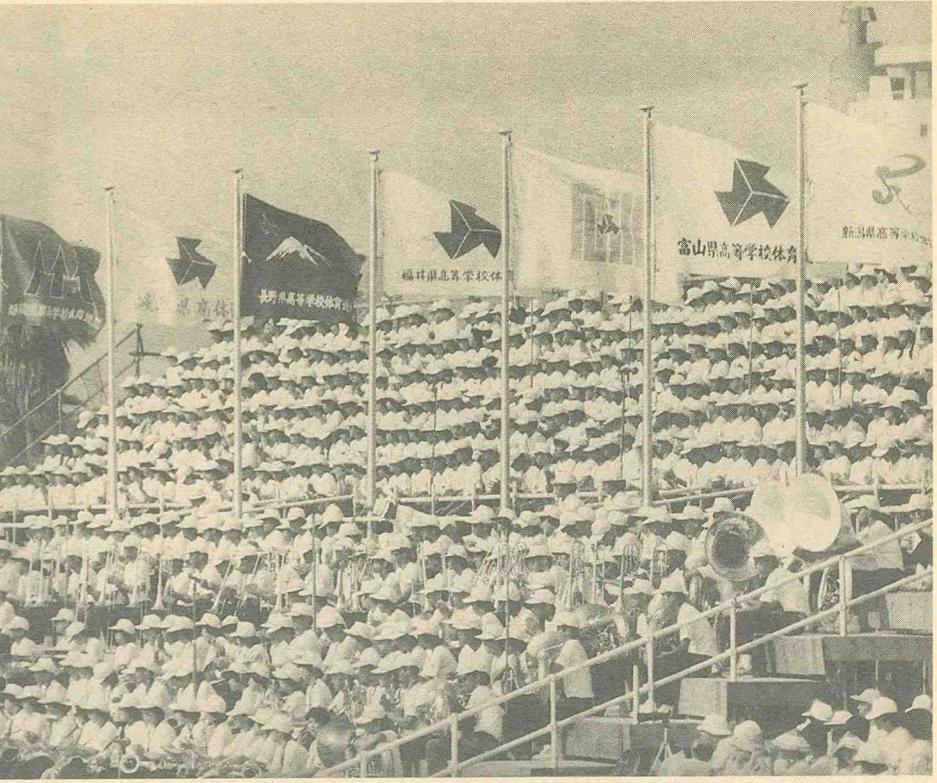
南国の空晴れて…… 若人の祭典、はつらつと

総合開会式——それは高校生の大會にふさわしく、明るく、さわやかであった。

さつそそうとしたマーチングバンドなど多彩な公開演技、役員・選手団の力強い入場行進、歓迎のことば、皇太子殿下のおことば、選手代表の宣誓などがあり、優美さと力感あふれる集団演技でフィナーレへ。

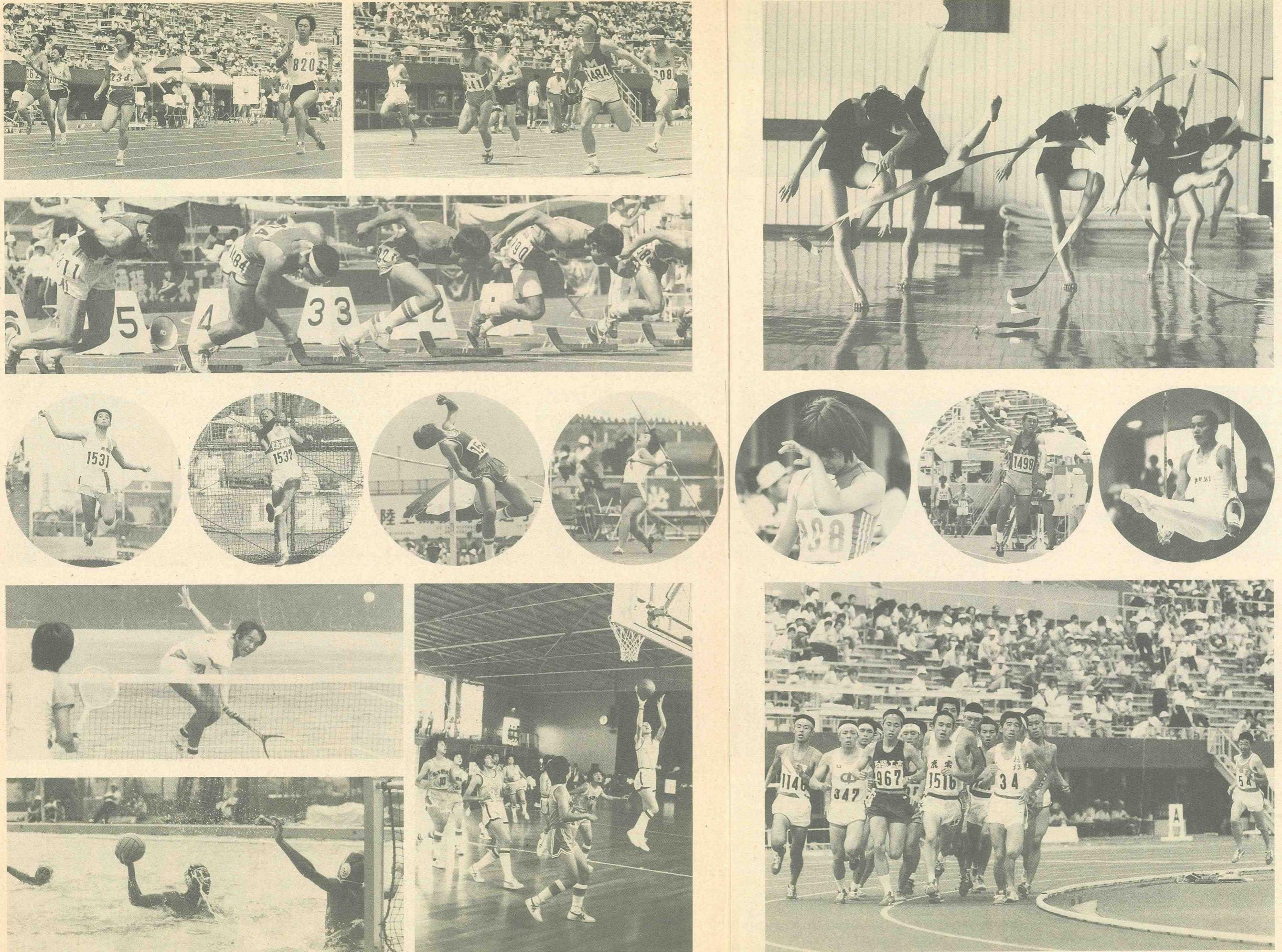
参加した選手それぞれの青春の一ページに、この日の感激は深く刻まれたことであろう。

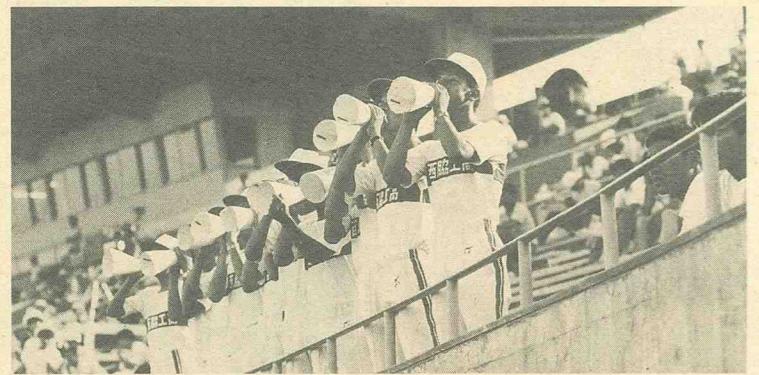
続く各競技においても、青春の情熱と闘魂とを傾けて、もてる力と技を出しきつた。この貴重な体験を飛躍への大きな糧として、限りない未来に向かつて羽ばたけ、若人！



情熱と闘志燃やして

(水泳は十七日から二十日まで) 県下二十三市町で行われ、二十五種 熱い闘いの模様や大会前の練習風景などを紹介します。





太陽国体からちょうど十年。今回の大會は、高校総体史上初の県単独開催という画期的なものであつた。それだけに、開催までの長い年月、関係者の間で周到な準備が進められてきた。

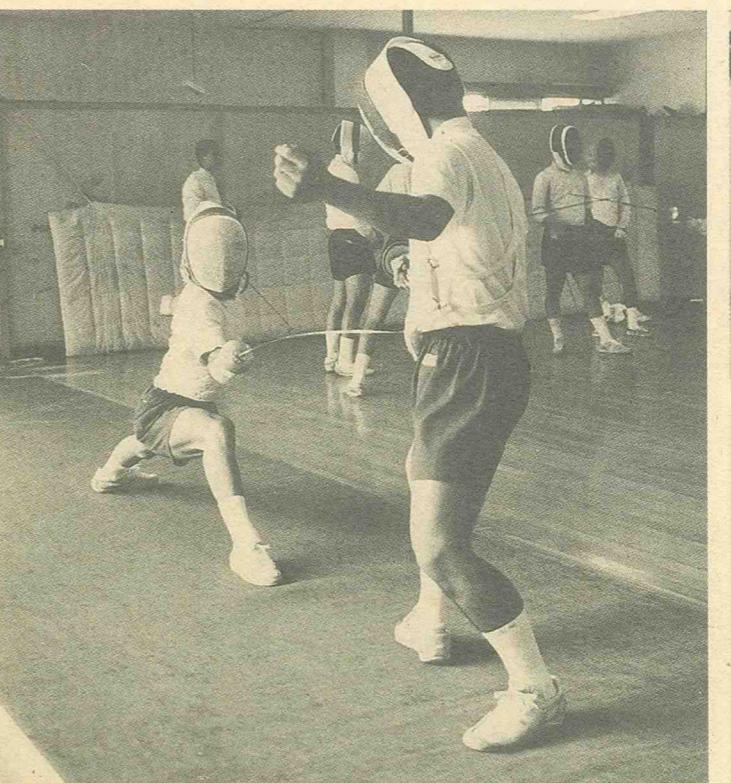
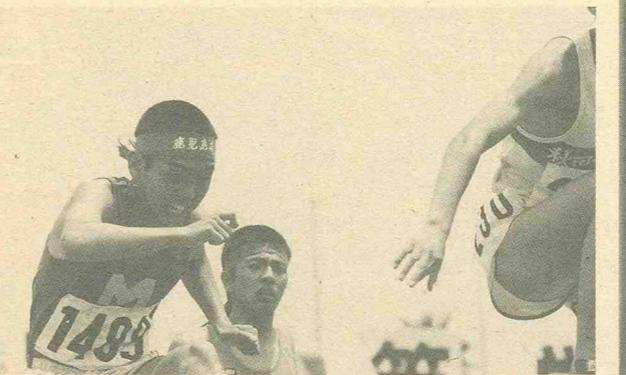
昭和五十三年、県高体連評議員会で誘致決議、昭和五十四年の全国高体連理事会での開催決定などを受けて、市でも準備委員会、実

行委員会をつくり、県と連携をとりながら受け入れ体制、開会式や競技の運営など、各方面に万全を期して着実に準備を進めてきた。大会は成功的のうちに幕を閉じた。

その中で、忘れてならないのは高校生をはじめ大会の裏方役に徹した多くの人びとのことであろう。

競技会場で、街で、宿舎で温かい応対に努めた人びと、競技の進行にひたすら力を注いだ人びと、あるいは、観覧席で惜しみない拍手や声援をおくつた人びと、また、この紙面にこそ登場しないものの、目だたない所で一役を果たした人びとは数多い。文字どおり一人一人役"市民総ぐるみ"で遠来の選手たちに接し、立派に大会を盛りあげ、支えていた大いに、「本当にご苦労さまでした、裏方さん」。

裏方さん、ありがとう



女子個人戦 No.	
1.森内・橋本(香川)	中間・高寺(愛媛)
2.高谷・大場(滋賀)	野村・日暮(福井)
3.水谷・鈴木(奈良)	小林・森(鹿児島)
4.宇井・米本(新潟)	富元・成松(宮崎)
5.藤沢・米川(福岡)	當田・阿部(岐阜)
6.御谷・坂原(静岡)	藏原・岡村(高知)
7.仲間・鈴木(宮城)	山・岡崎(三重)
8.宮崎・小笠原(宮崎)	木下・星(高知)
9.小田原・鶴田(神奈川)	吉井(高知)
10.柏田・金谷(栃木)	
11.丸山・河合(長野)	
12.今井・佐藤(宮城)	
13.石室・金色(岩手)	
14.野口・多岐(岐阜)	
15.平木(滋賀)	
16.田嶺部(大分)	
17.谷口(宮崎)	

人物登場

「コミュ」ケーションとしての英語を
学んで。市教委初の外人教師は、
穏やかなファイトを燃やす。

納豆、キビナゴ以外の日本食なら何でもOKという日本食ファン。鹿児島での生活をエンジョイしながら、鹿児島の英語教育に貢献しようと、秘めた闘志を燃やすアメリカ女性だ。

●鹿児島市教委英語指導主事助手
スーザン・ゲイツさん

米国カリフォルニア州出身。一九七七年九月、パシフィック大学に入学、一九八一年八月、卒業とともに国際学生学者を取得。一九八一年五月、十三歳。

夏休みにはいる前の十九日、鹿児島市甲南中学校で英語の授業の初体験。最初から最後までオーラ英語で、ゆっくりと「私は米国カリフォルニア出身です。家族は七人います」など、自己紹介した。

優しいまなざしで、立ち居振る舞いも決してヤンキー娘的ではない。薩摩オゴジョ風といつては過言になるが、鹿児島のどこにでもいそうな、ごく平均的なお嬢さんだ。

この日はカメラを意識してか、

人の意向で、日本語は全然しゃべらないが、実はカタコト程度は話せる。聞くほうも「話の内容はわかる」というから、ひそひそ陰口でもたたこうものなら、教壇からチョ

最初、本人も生徒もぎこちなかつたが、徐々に慣れ、今度は生徒の側から質問。「好きな日本食は?」などと答え、親日家ぶりを大いに發揮していた。

授業では「コミュニケーション」としての英語を学んでほしい」という本音の苦味がダメなのか、一口食べたたけで、あとは手をつけなかつた。納豆も、あのネバネバがいやという。

鹿児島の特産キビナゴは全くダメ。後見役の後平和明市教委指導主事方でキビナゴのテンプラが出たが、ただで、あとは手をつけなかつた。納豆も、あのネバネバがいやという。

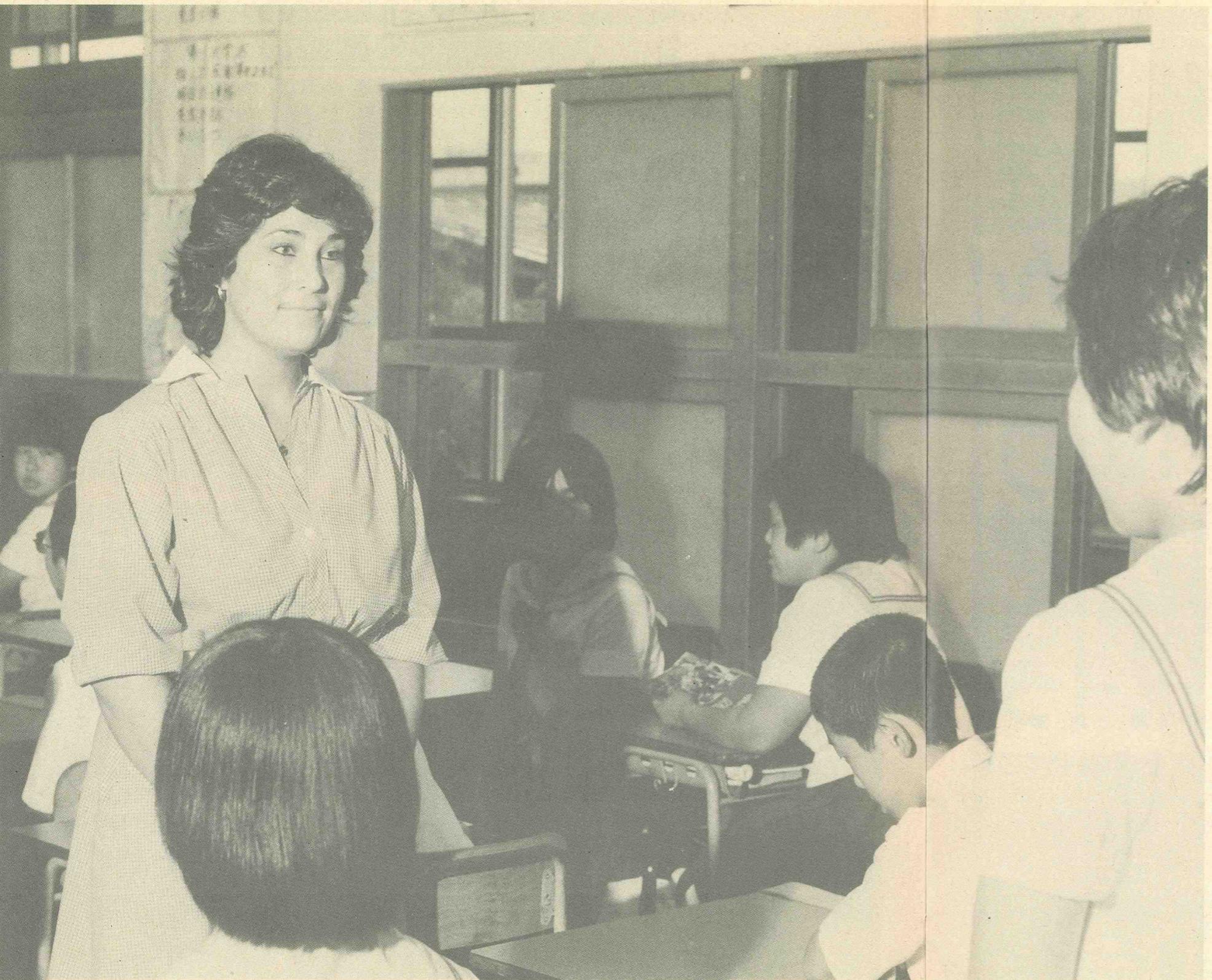
食べ物のほうは一応の親日家だが、日本の歌よりジャズやボブ・マレーなどのレゲエミュージックが好き。もつとも、マンションにはテレビを置いておらず、歌謡番組を見るすべもなく、無理もないだけだ。

一クが飛んでくるかも知れないのでご用心。

彼女の日本通は、一九七八年九月から一九七九年五月まで研究のため日本に滞在したことから身についたもの。それまではもちろん、刺し身もテンプラも全然知らなかつた。日本食はすべてOKだが、

最初、本人も生徒もぎこちなかつたが、徐々に慣れ、今度は生徒の側から質問。「好きな日本食は?」などと答え、親日家ぶりを大いに發揮していた。

授業では「コミュニケーション」としての英語を学んでほしい」という本音の苦味がダメなのか、一口食べたたけで、あとは手をつけなかつた。納豆も、あのネバネバがいやという。



撮影／水谷 進

戸外でのスポーツが好きだが、七月上旬に来鹿したばかりで、まだ勝手がわからないせいか、特技の水泳もソフトボールもしていない。カリフォルニア州サンジエゴ市出身で夏の日差しには慣れているはずだが、「鹿児島はとにかく暑い」ともらす。

女性でなくとも、単身一人で異国へ滞在するとホームシックになるものだが、「あまり、そんなことはない」と言う。しかし「クリスマスや感謝祭などには、たぶん感じるだろう」と付け加えた。強固な意志をもつた中にも、女性らしい繊細さを感じられた。

市教委の英語指導主事助手といふ肩書で鹿児島に一年間滞在したあと、二～三年間サンジエゴの日本企業に勤める予定。このあと、ロンドンへ再び渡り、勉強するという向学心に燃える女性だ。

文／塩田 孝美

南日本新聞社記者

ぼくらの施設めぐり

北部清掃工場

文／鶴田純一・元吉昌枝(犬迫小6年)



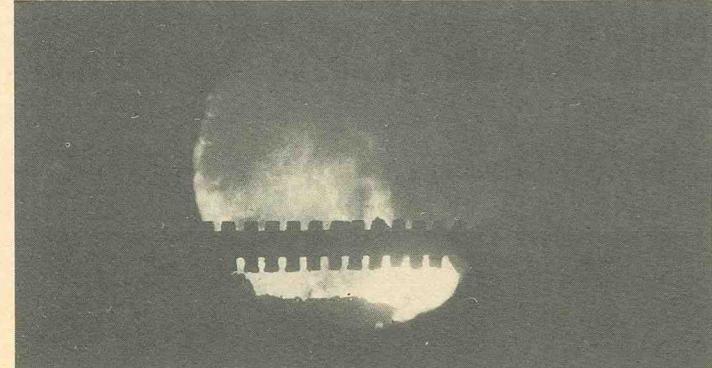
集められたごみは計量されてから、ごみピットへ運ばれる



ごみの量をはかりながら、クレーンは遠隔操作される



ごみはピットに投入される



炉の中は800°C～900°Cで燃えるように調整される



投入されたごみはクレーンで炉に運ばれる

一日に多い時で延べ二百四十台、

重さにして四百トン以上ものごみを

この工場に運んでくるのだそうです。

そのうち、五十～六十台が水分だ

ということです。「生ごみなど、よ

く水切りをしてくれるとありがた

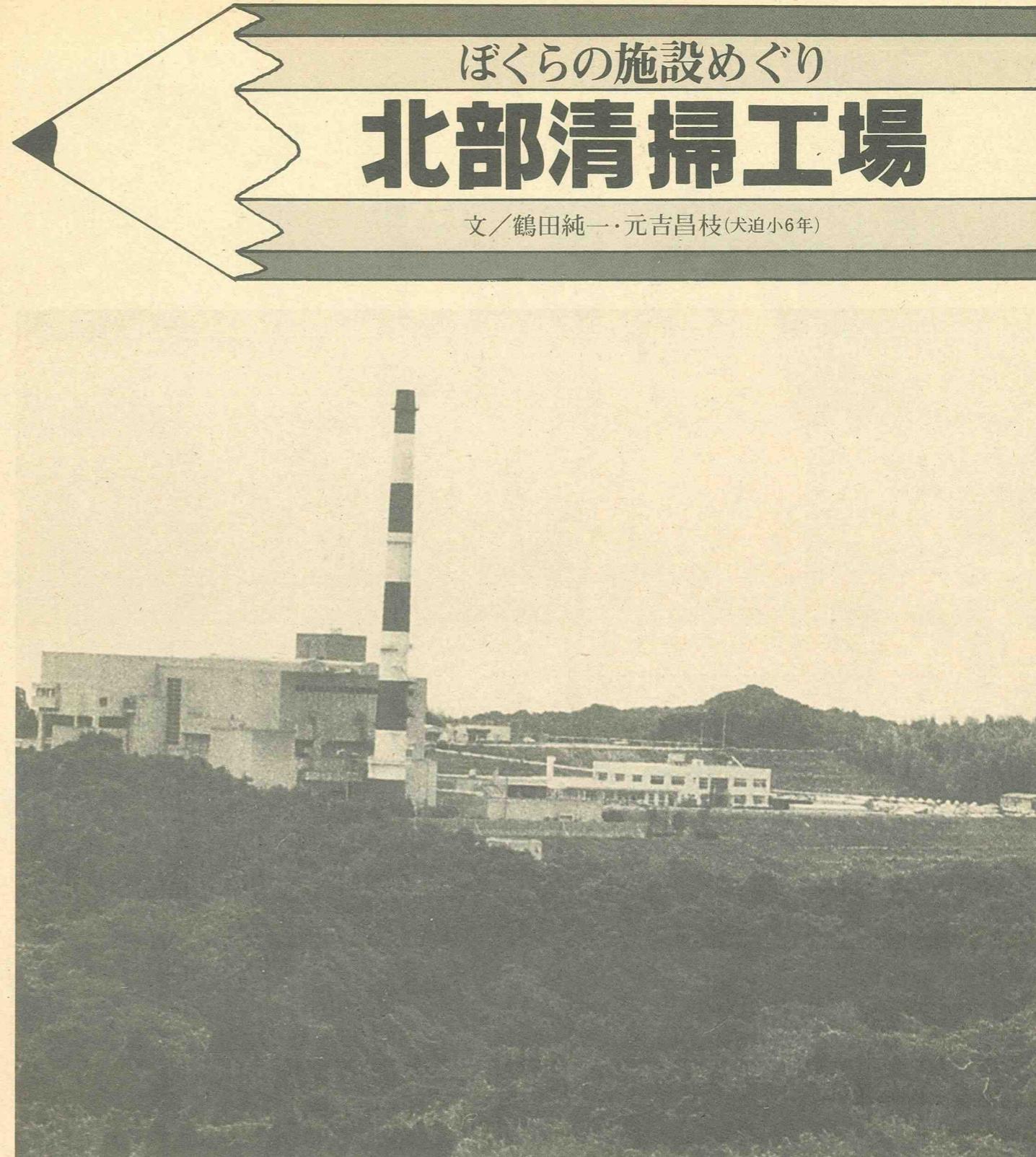
いんですか…」という福留場長の気

持ちがよくわかりました。

機械は一年中休むことなく運転され、職員の人たちも昼夜交替で働いているそうです。「もし、この工場がなかつたらどうなるのかなあ。市内は、ごみで埋まっちゃうかもしれません」と思いました。

私たちちは「犬迫の町がよれて、くさくなりはしないか」と、いつも心配していましたが、場長さんが「煙は、何回も何回も薬で洗つて、きれいにするんですよ。だから、煙はあったかい空氣だと思えばいいでしょう。他の物にしても同じよう、公害を起こさないための防止対策がねられているんですよ」と話してくださいました。

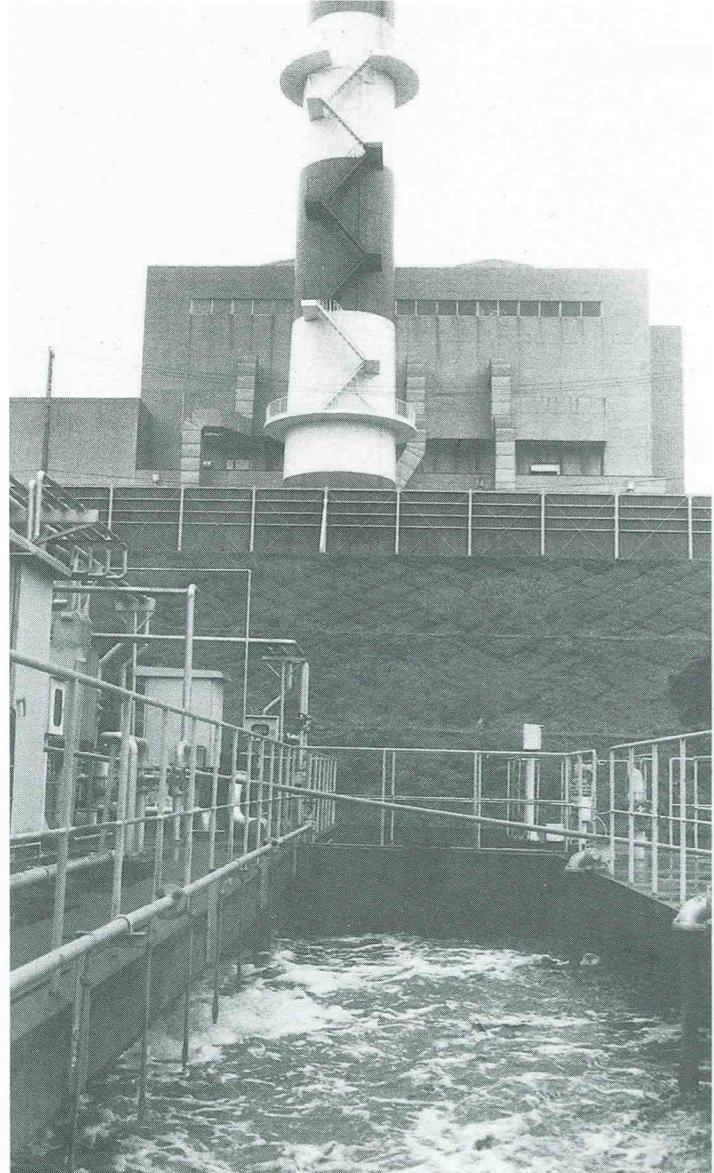
「ああ、よかった」と、私たちちは安心して工場をあとにしました。



都市化が進むにつれて増えてくるごみ。これに対処するため、昭和五十三年四月、五十六億円余りの巨費を投じ、北部清掃工場が建設された。今回は、犬迫小学校六年、鶴田純一君と元吉昌枝さんに見学してもらつた。



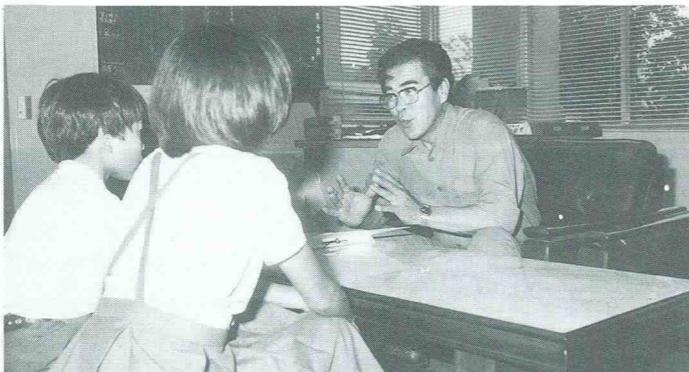
福留場長に説明を受ける鶴田君と元吉さん



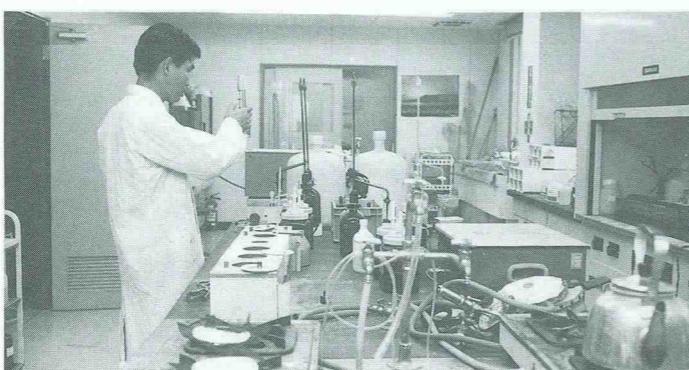
工場内で発生した汚水はきれいにされ、再利用される



清掃工場の裏側には洗車場も…



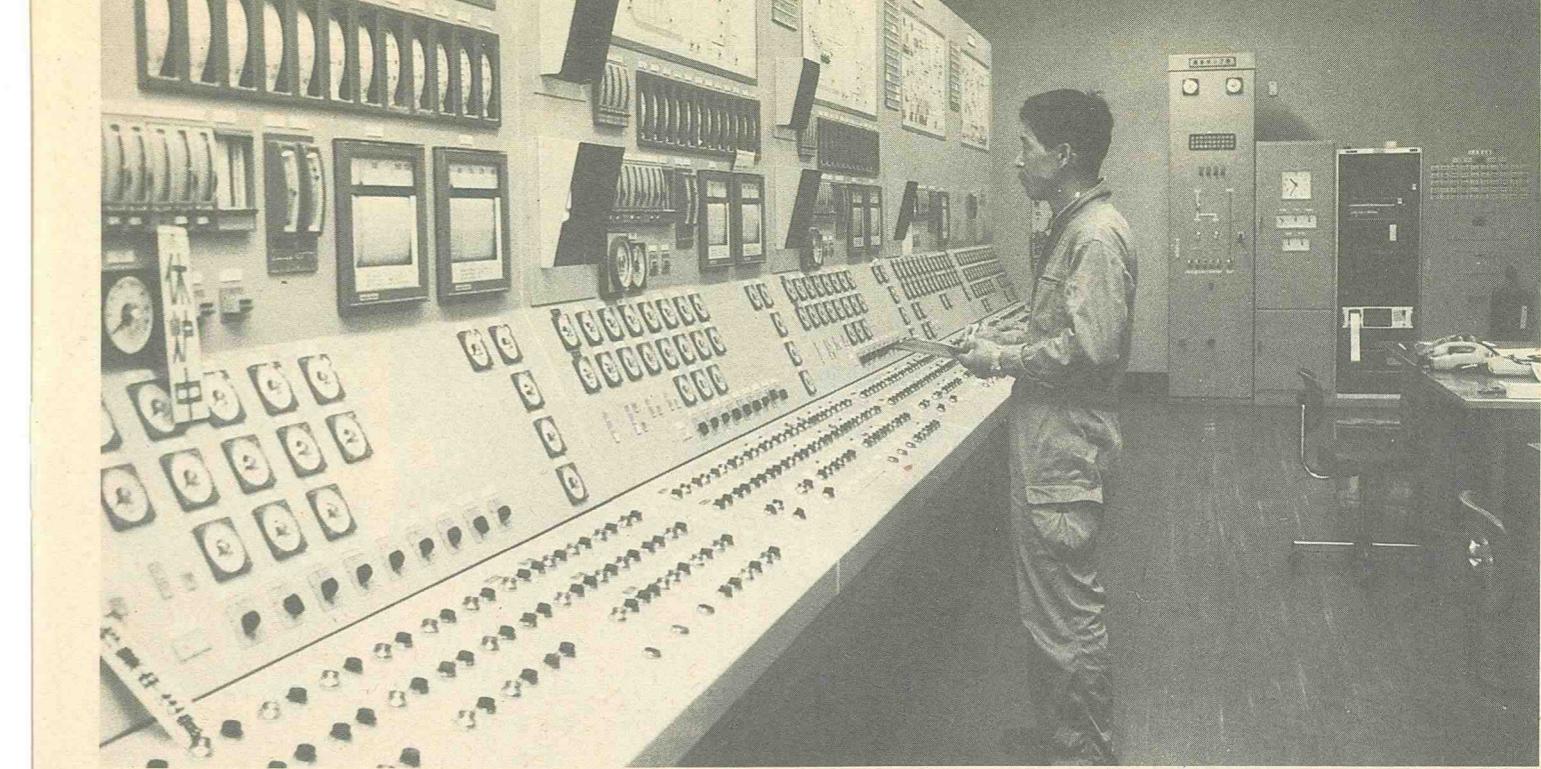
鶴田君と元吉さんに説明する福留場長



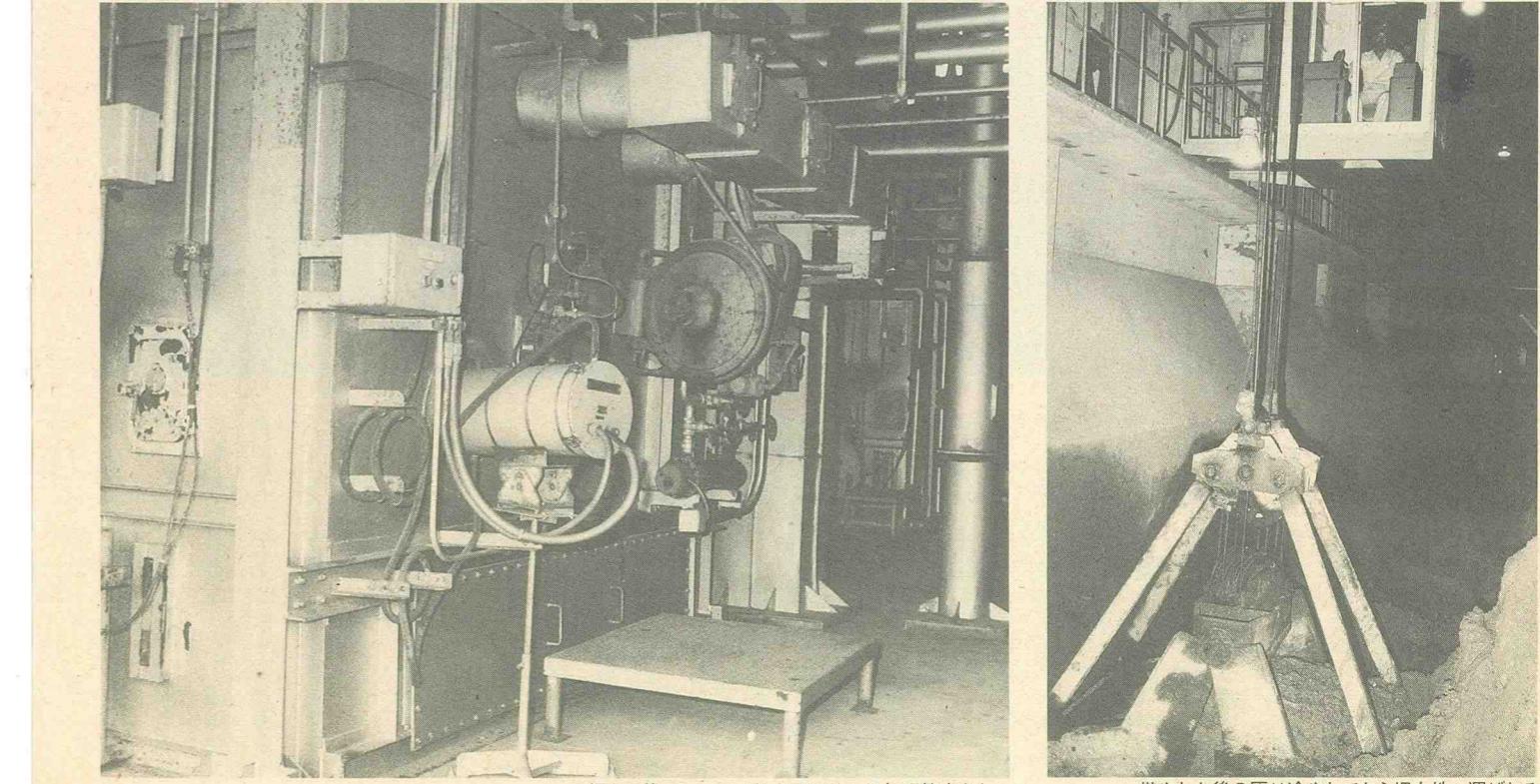
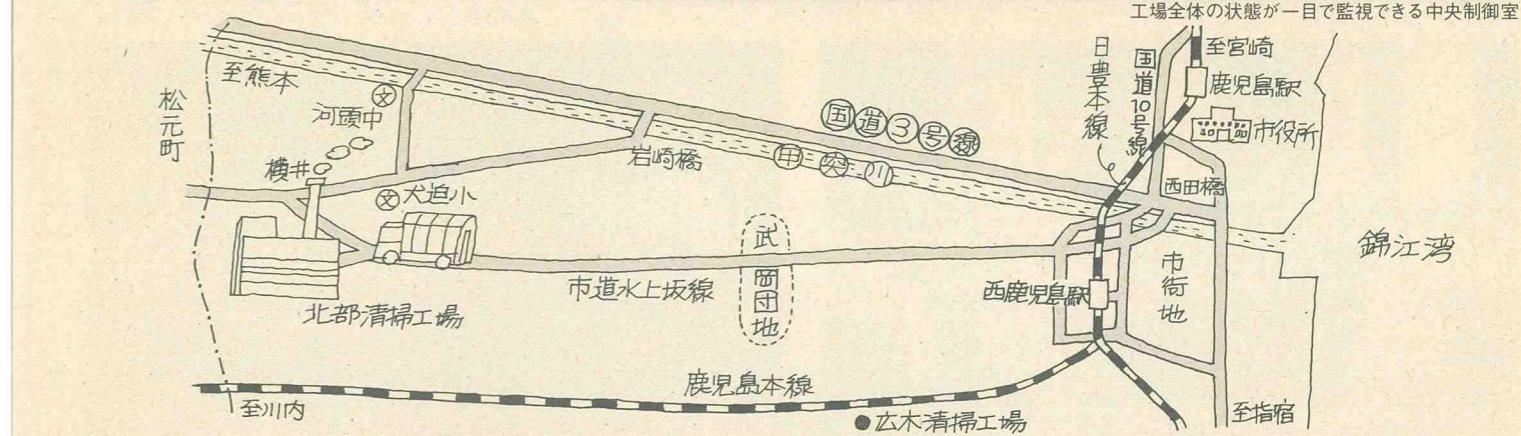
汚水や煙の分析も行われる



1日240台余りの収集車が搬入路を通過する



工場全体の状態が一目で監視できる中央制御室



炉は3基あり、それぞれ1日150トンの処理能力をもつ

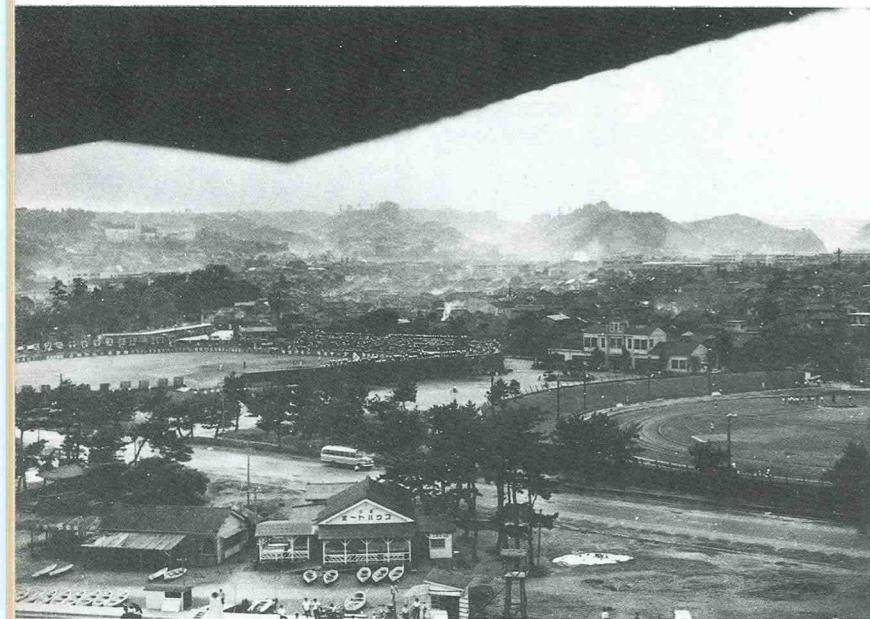
燃やした後の灰は冷やしてから埋立地へ運ばれる

昭和36年●

飛んで21年

●昭和57年

空から見た街の表情



鴨池・郡元

市営鳴池球場のほかはガラリと
様相を変え、その面影すらない。

ボートハウスと松林のあたり。

一帯の浜辺は水搬送工法によつて
百八万平方㍍の広大な陸地に変身。

市営の水泳プールや勤労婦人セン
ターの建物が色鮮やかに。

球場越しに見える木立は鳴池動
物園で、大きな池や遊園地もあつ
た。昭和四十七年十月、南部の平
川地区に移転、開園。かわってダイ

エーや開発事業団のビルが出現。
右端の市営鳴池陸上競技場、今
は高層の住宅がニヨキニヨキと。



撮影/水谷進

手をつなぎ輪をひろげる 婦人たち

女性の意識や価値観、それをとりまく環境は急速な変化をみせています。その中で、人生を充実させ、自分を向上させようとするご婦人たちが目立ちます。

スタジオには地域で活躍する三人の女性を招き、活動の一端を紹介。忙しい家事のあい間をぬつてはりきる方々だけに、女性の時代來たりと思わせる熱心なお話ぶりでした。

出席者(敬称略)

鹿児島市長
山之口 安秀
司会
高島 康子

西田生活学校
小中 潤子
ボランティアグループリーダー
馬渡 リツ
スポーツ少年団指導者
大迫 洋子



●小中さん

市長 (画面を見ながら) こうして、西田町のグリーンストームを清掃していただいている様子を拝見しますと、それだけでも頭を下げたいようなうれしさを感じますね。

小中さん が西田生活学校に参加されただけは、どんなことからですか。

小中 私の場合は、町内会の役員を引き受けるようになつてからメンバーに加わったのですけれども、やはり、世間で騒がれております。

洗剤だとか、食品添加物などの問題に無関心でいられなかつたからですね。それと、グループにはいつておりますと、いろんな人との出会いも楽しいですし、そういう素晴らしさにひかれて動いております。

ボランティア活動は

わたしの生きがい

高島 馬渡さんのグループが、谷山の特別養護老人ホーム「美樹園」を訪問している様子をフィルムで紹介いたしました。お年寄りの方々も、ボランティアのみなさんがいらっしゃる日を楽しみにしてい

るようですね。

市長 そうですね。馬渡さんがボランティア活動を始めた動機

市長 (画面を見ながら) こうして、西田町のグリーンストームを清掃していただいている様子を拝見しますと、それだけでも頭を下げたいようなうれしさを感じますね。

小中さん が西田生活学校に参加されただけは、どんなことからですか。

小中 私の場合は、町内会の役員を引き受けるようになつてからメンバーに加わったのですけれども、やはり、世間で騒がれております。

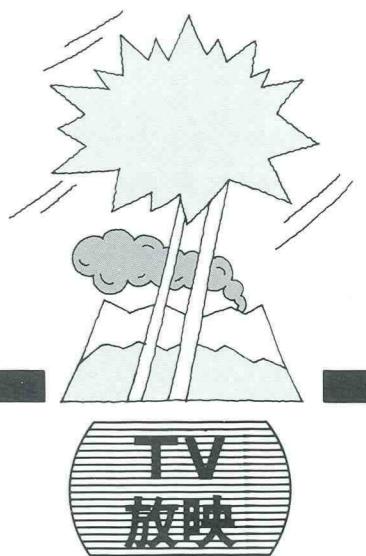
洗剤だとか、食品添加物などの問題に無関心でいられなかつたからですね。それと、グループにはいつておりますと、いろんな人との出会いも楽しいですし、そういう素晴らしさにひかれて動いております。

高島 馬渡さんのグループが、谷山の特別養護老人ホーム「美樹園」を訪問している様子をフィルムで紹介いたしました。お年寄りの方々も、ボランティアのみなさんがいらっしゃる日を楽しみにしてい

るようですね。

市長 そうですね。馬渡さんがボランティア活動を始めた動機

市民のひろば



「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四曜日は三十分間放送。



●市長

家族や地域のために

女性として役立ちたい



●市長

シスター、福祉コミュニティセンターなどがありますが、昼も夜も、大変多くの方々に利用していただいている。そして、そこで学習されたことを生活の中に生かすと、新しくいまちづくりに向けての大きな力になってきたなあと、喜んでいるところです。



●市長

馬渡 小さい時から、暇があつた

体のリーダーとして長年ご活躍いただいている米山トモエさん、森澄子さん、坂根庸子さんと、理解者が多いであります。

小中 婦人パワーといつていいくらいです。おかげさまで、地域全体もうまくいっています。

市長 空きかん問題には、私ども頭を痛めているんですが、これも取りあげていただいていますか。

小中 はい、空きかんの投げ捨て防止とか、持ち帰り運動の呼びかけは常に行っています。街をきれいにするには、私たち一人ひとりが自覚しなければならないと思いますね。

馬渡 小さい時から、暇があつた

たいと思っていましたが、子どもを四人育て、大学を出しているうちは経済的にもちょっと無理でした。それが済んだものですから、頭と体の老化を防ぐために、市のボランティア講座に入れていただきたいんです。今では、これが私の生きがいみたいなものです。



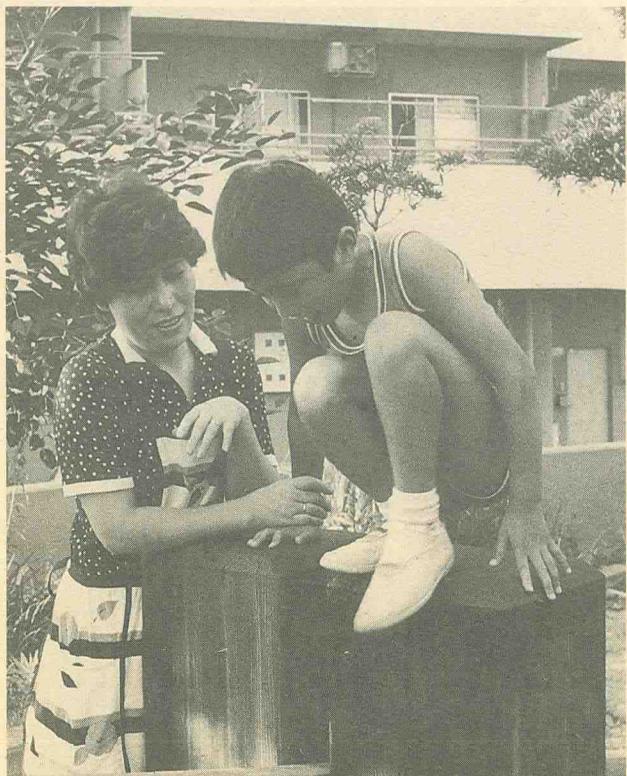
●馬渡さん

市長 ボランティア活動と一口で言つても、見栄や外聞などを考えていてはできないことですし、ご苦労も多いと思いますね。

馬渡 本当に誠心誠意でないと絶対にできないと思います。交通費も自己負担ですし、お弁当も持つていかなければならぬですからね。訪問する日は、朝早くから起き

奥様こんにちは

美容師 白水 順子さん



ドアを開くと、明るい声が聞こえてくる。笑顔の素敵な人だ。全日本と県の講師会のメンバーであると伺つていただけに、いかめしい人かなと思っていたが、そんな雰囲気はみじんもない。

仕事を休んだのは十三年前、手首を骨折した時。しかも四～五日だけ。添え木をしてがんばり通した。県の美容コンクールで優勝の経験二度。「そう、十五年くらい前かしら、

業界の人たちとヨーロッパ研修に」と語る表情にも、たえず第一線で活躍している人の活気がうかがえる。「仕事の速さがとりえなの」、控えめなほほ笑みの中に手際の良さと腕の確かさが光る。

「ふれあう時間が少ないので申し訳なくて」と、小学四年生の美幸さんは、一年生の誠君を毎朝バス停まで見送る。また、夕食後、どんなに疲れていても、三十分程は子

どもたちとの対話の時間をもつ。美容師歴二十三年。手のかからぬ(?)主人と子どもたちなの、ありがたいような、寂しいようなと。家族の理解と協力があつてこそ仕事に打ちこめるのだと、感謝の気持ちをたやさない優しいお母さんである。

「時間がとれれば、大好きな日本画を習いたいわ」と、夢もふくらむ。多忙なお母さん、がんばれ。

曾我どんの傘焼き

あなたの
あなたの

コサロ+P

曾我どんの傘焼きは鹿児島三大

がっている。

行事の一つ。壮大な火の祭りで、鹿児島の夏の風物詩として市民に親しまれている。

一日、甲突川高見橋付近の両岸に浴衣姿の家族づれなど、たくさん

の人びとが集まつた。

高く組みあげられた傘やぐら。

傘の色どりが夕日に映えて美しい。

傘の骨も、シルエットで浮かびあ

夜風が川面を渡り、辺りが夜のとぼりに包まれる頃、傘に点火。

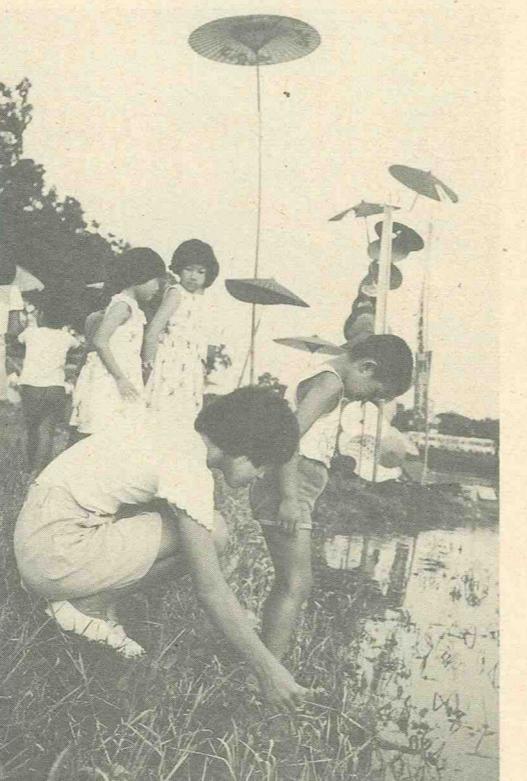
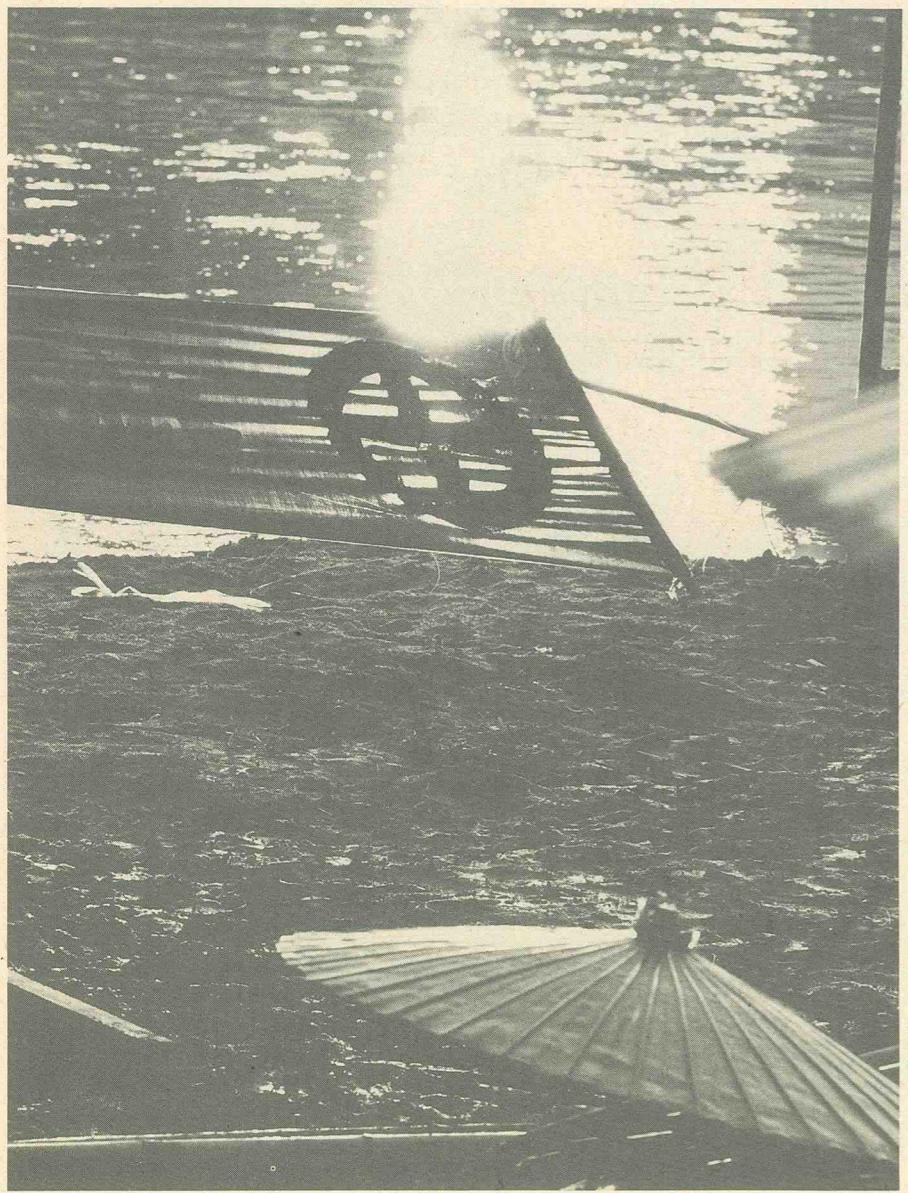
火が傘の山を駆け上つた。熱気が広がる。真っ赤な炎がさつま兵児

の身をこがす。

一瞬の炎の祭りに人びとの歓声がわき起こり、興奮が渦巻いた。

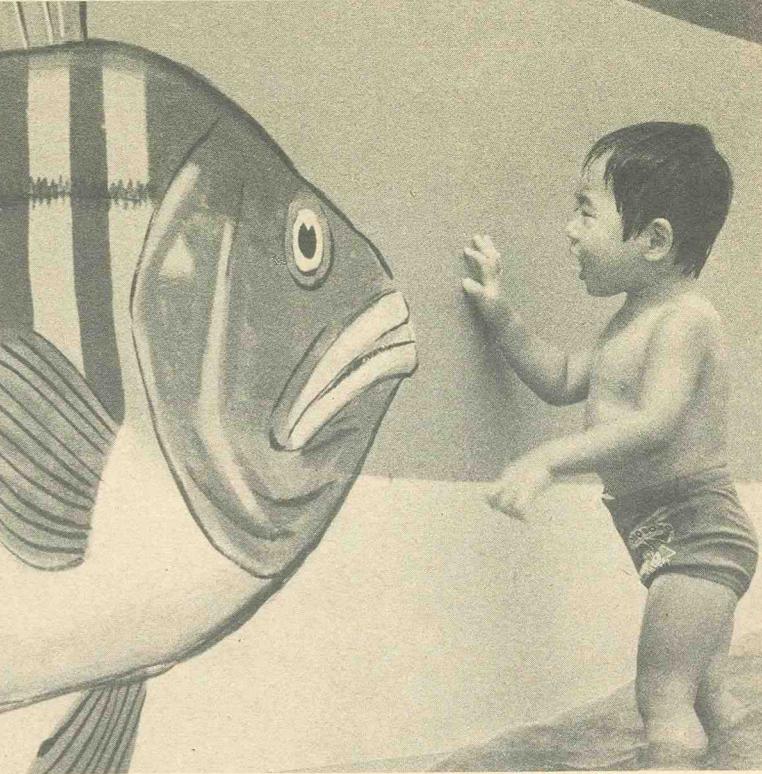
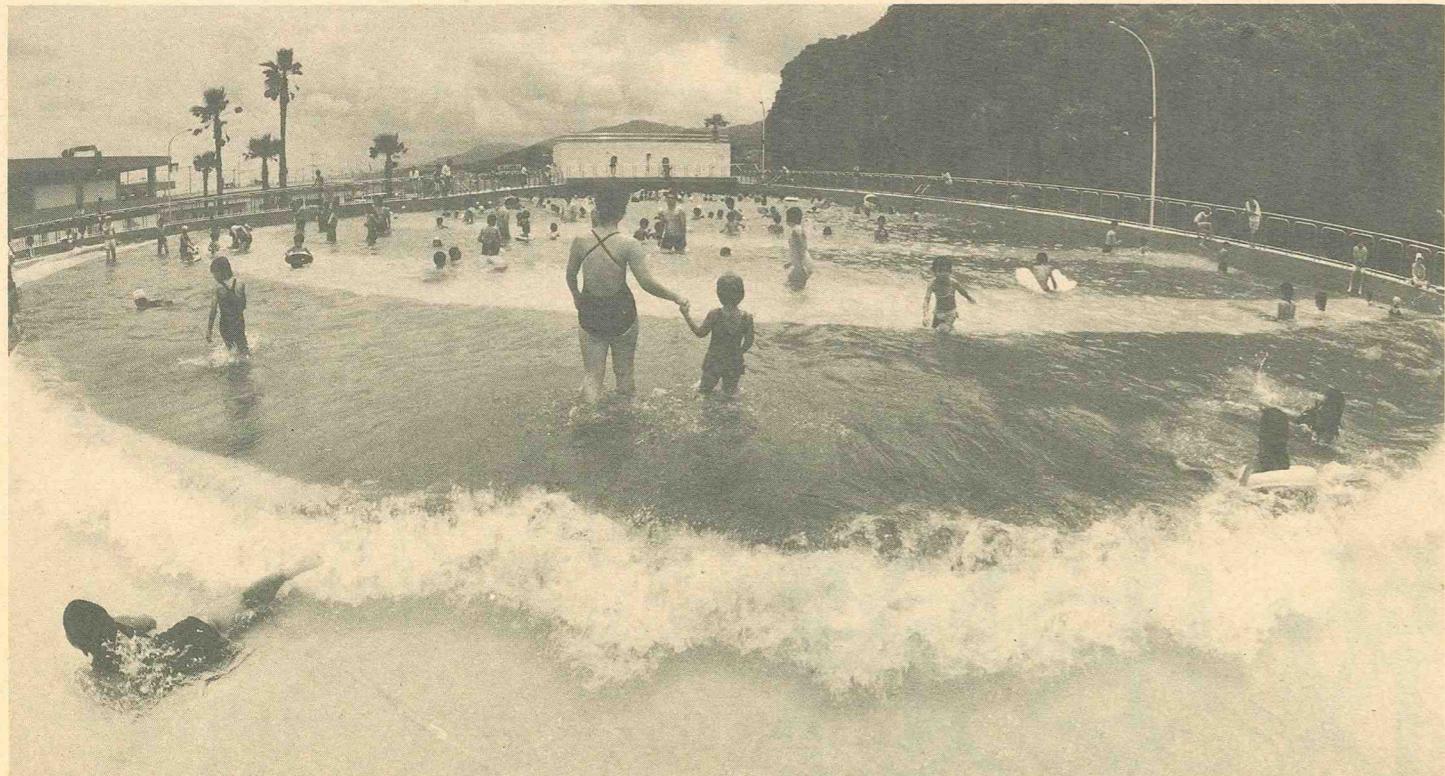
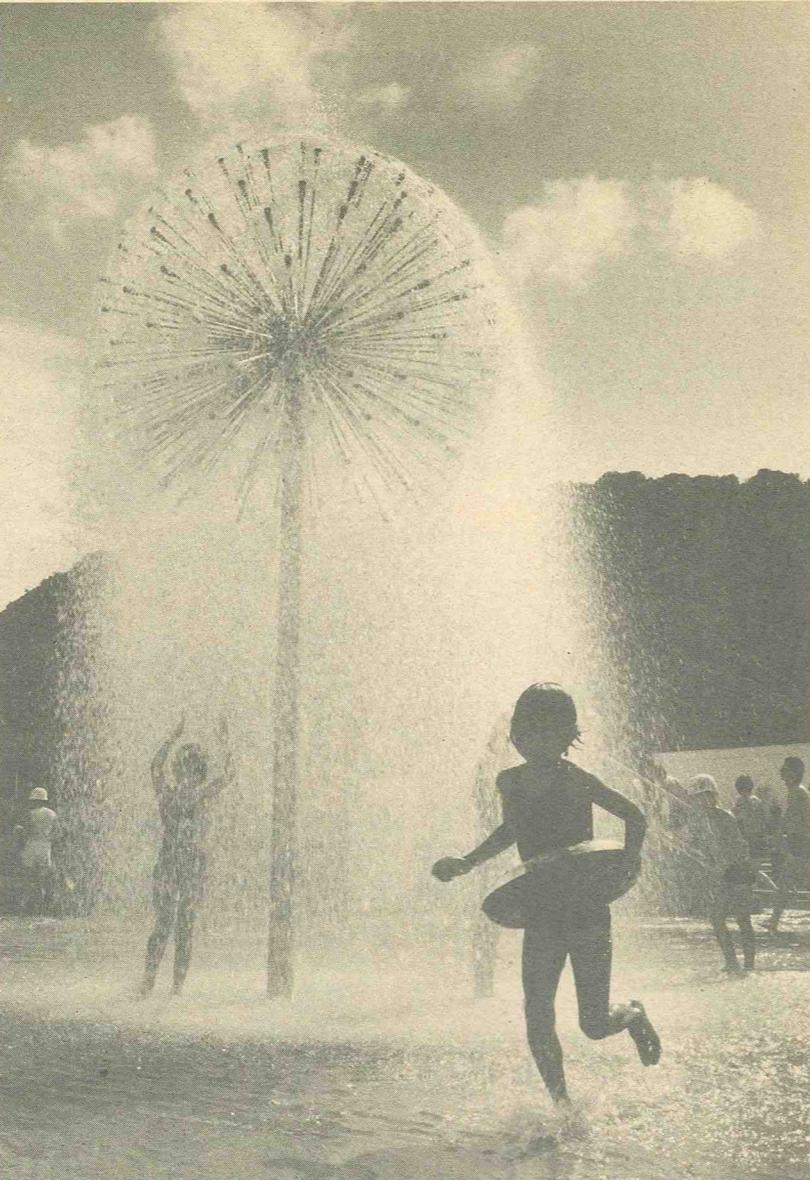
写真と文／谷山 茂

武岡二丁目21-3



あなたの

みやび



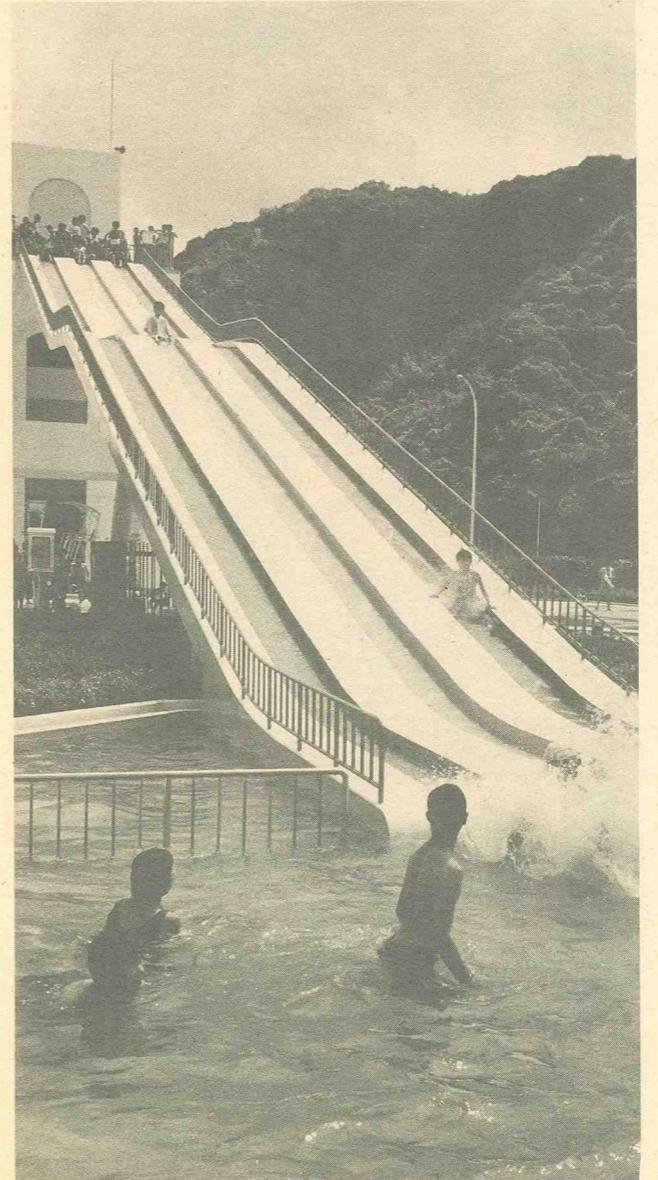
サンライププール

短いつゆの晴れ間に人びとの声
がこだましている。谷山の七ツ島
に渚がもどってきた喜びの声が。
昔、人びとが歩いた砂浜はアス
ファルトの道路に隠され、潮の香
りもいつしかうすらいだ。かつて
の面影はなく、道路沿いに残され
た小島だけがそれをしのばせる。
しかし、渚がよみがえった。魚
や貝こそないが、波のある流れ
のある渚が…。

シャワーの水しぶきの中には虹
の橋が現れ、水とのふれあいに人
びとはうかがっている。大人たちは
プールサイドで甲らぼしをしながら
、幼い日の思い出にひたり、そ
の中へと入り込んでいく。子ども
たちは新しい水との出会いに希望
と夢をふくらませ、その瞳は夏の
空のように輝いている。

写真と文／尾嶋 義信

小松原一丁目15-12



伊敷町・甲突川河畔

川の流れに 四季折々の風情

日本漫画家 協会会員 住吉 重光

ここに住んで十三年ぐらいですかね。引っ越してきた当時は、この辺りは田んぼが少しある程度で、空地は草ぼうぼう、国道と川の間も小さな家がぽつんとあつたぐらいでですよ。今、次から次へと家が建っていますが…。国道3号線の拡張や九州縦貫道などで、すっかり町の様相が変わりました。

散歩ですか？、犬のおつき合いで仕方なしに毎日、夕方、三十分以上歩きます。雨が降つても風が吹いてもですよ。

梅ヶ瀬橋から北へ向かって観音さまへの川べりは車も少ないし、散歩する人が多いですよ。決まり顔ぶれも何人かいります。最近はジョギング姿も増えましたね。この近くにお住まいの夏目漠先生もマイペースで黙々と走つていらつしゃいますよ。

梅ヶ瀬観音さまの月二回のお日

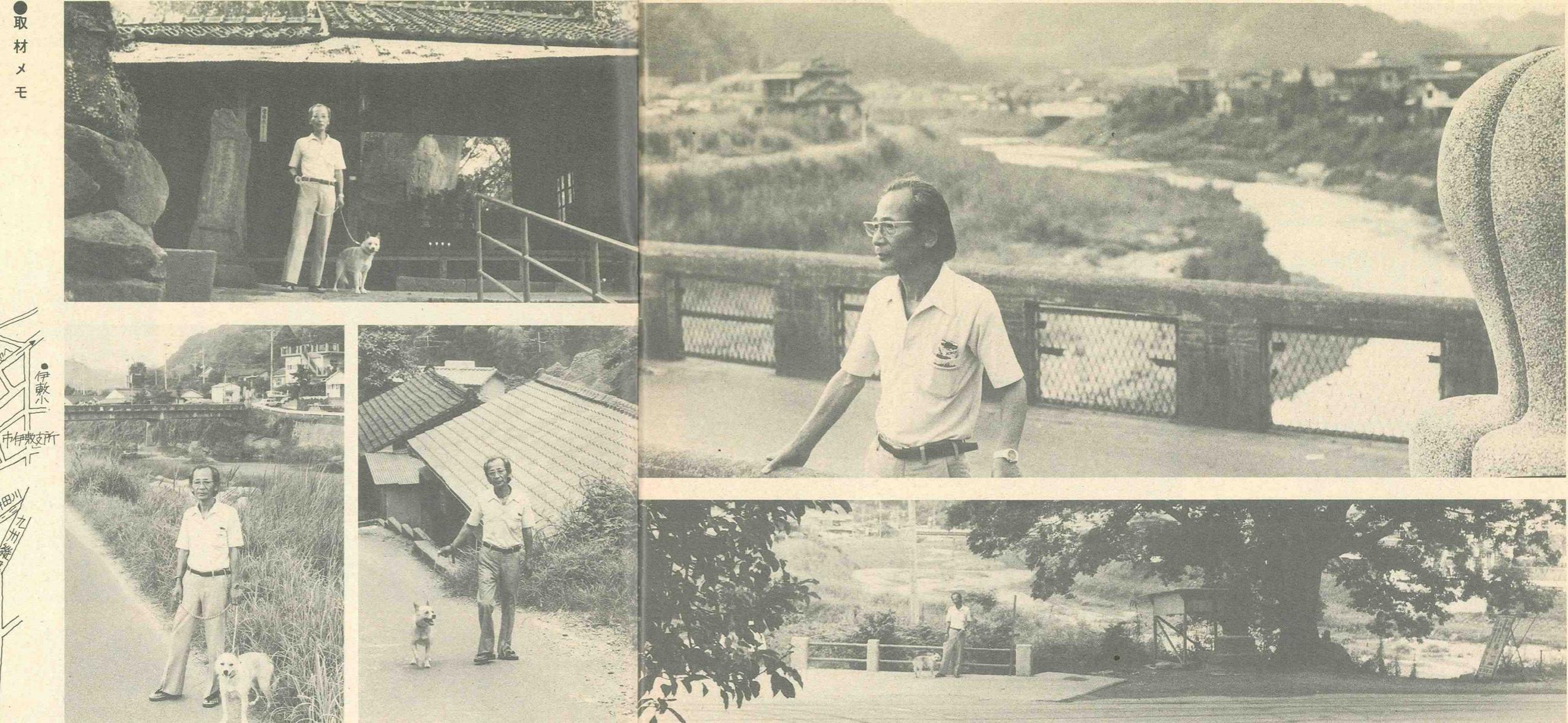
の時は、人通りが絶えませんね。受験の頃は、親子づれがいっぱい人で参詣している姿を見ると、何を願いごとをしたのかなあと、つい余計な心配をしています。しかし、一番多いのは、やはり商売をしている人でしようか。天文館あたりのママさんらしい人や、大きな商店の主人らしい人も見ますから…。

この観音さまは、相当ご利益があるんでしょうね…。

歩いている時は犬のベースです。この辺りの甲突川は、私が住むようになつてからも余り変わっていないんですね。

春になると、子供たちが光る川面で水遊びをする姿をみかけますし、夏は釣り、泳ぐ子もいますね。秋は赤とんぼが多いですね。冬は川原に積もつた雪、四季折々の甲突川の風情が目にはいってきます。

とにかく、なまけ者の私の唯一の日課、犬の運動ついでの散歩は漫画や隨筆の構想を練るのに格好の時間ですね。(談)



わたしの散歩道

●取材メモ
愛犬「むく」は、主人のペースを知つてか、取材中、ぴたり足元に添うように歩いていた。
長い新聞社生活の習いで、生活は夜型だという。現在は依頼され、漫画やカット、隨筆などにペントをふるう悠々自適の毎日。
話題は幅広く、その一味違った見方「漫画家の目」に引きこまれて、時のたつのも忘れた。

4月27日・南九州高速バス運行に宮崎市長へのメッセージを伝達
鹿児島市と宮崎市を結ぶ南九州高速バス運行に伴い、宮崎市長への山之口市長のメッセージがミスの西原美貴さんに手渡されました。



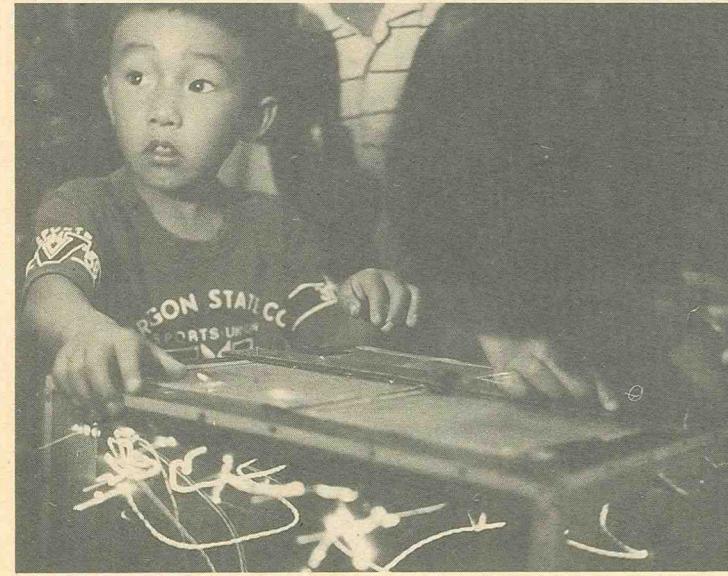
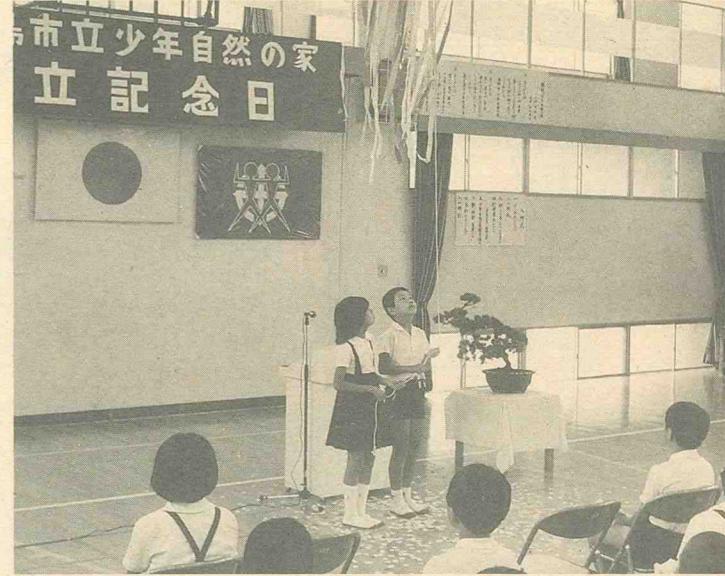
4月28日・パース市副市長、表敬訪問
パース市のチャールズ・F・ポプキンス副市長が3年ぶりに市役所を訪れ、山之口市長と懇談しました。



6月24日・ナペツルのヒナが誕生
特別天然記念物に指定されているナペツルのヒナが日本で初めてかえり、関係者を喜ばせました。



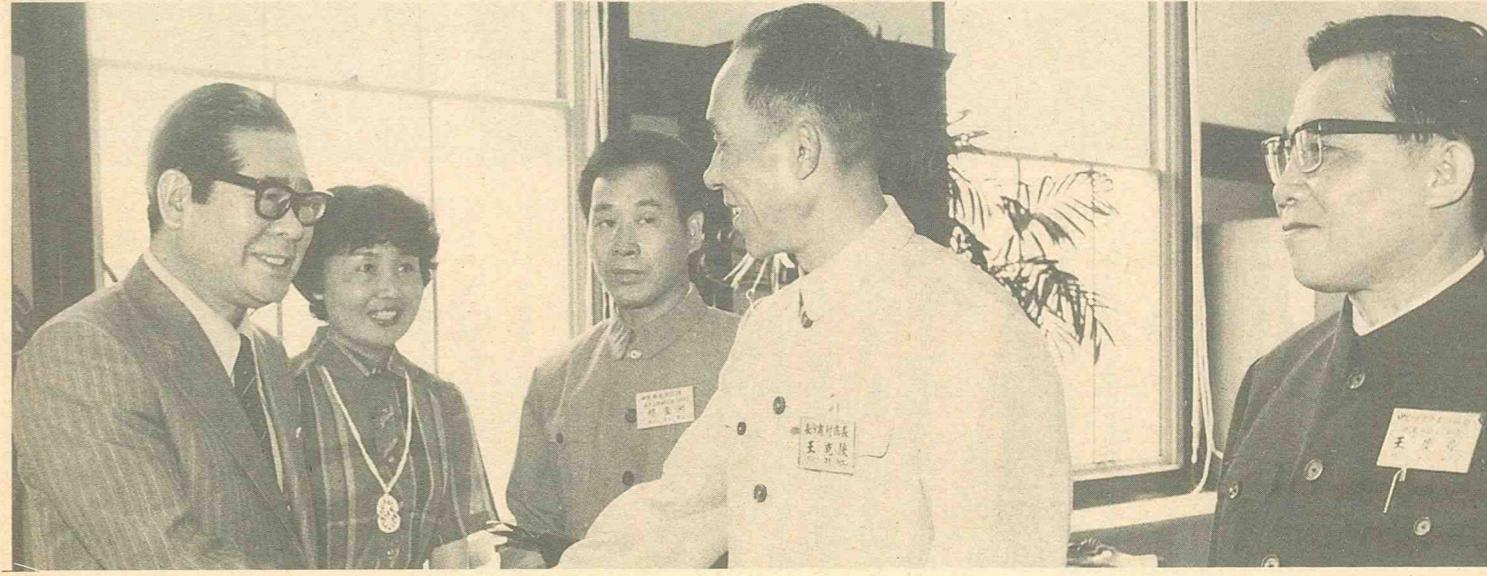
7月1日・少年自然の家、7周年記念
子どもたちに親しまれている少年自然の家が開業して7年。吉野東小の児童や関係者300人余りが出席して式典が行われました。



6月5日・ホタルを見る夕べ
「ホタルを見る夕べ」は甲突川河畔で行われ、「ホタルの舞」を一目見ようと2000人余りの人でぎわいました。



6月7日・市民運動推進員大会
風格と活力あるまちづくりをめざす市民運動推進員大会は、名山町の産業会館で開かれ、250人余りが参加しました。



7月28日・長沙市からの先遣観察団
中国の長沙市から王克俊副市長ほか3人の先遣観察団が本市を訪れ、山之口市長らと懇談した後、市内の施設などを見学しました。

あの店

岸尾武道具店

郡元二丁目

「ほとんど注文品です。顔の形、

手の大きさなど、採寸して作っています。剣士の素手と甲手が一体になつてこそ、その人の剣さばきも冴えます」と、長い経験に裏打ちされた言葉は鋭い。

お店を訪ねたのが高校総体の頃。

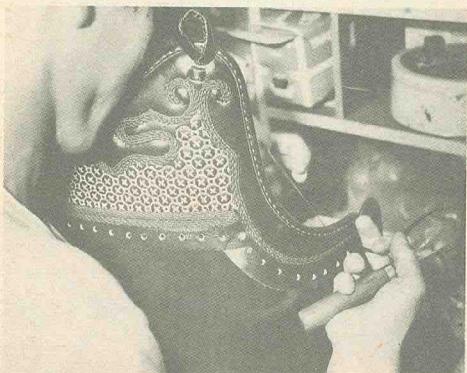
剣道の試合が気になるというご主人は、面ぶちに牛生皮を取りつける作業に黙々と取り組んでいる。かなり力のいる作業だ。

市内はもとより、県内でも武道具を製造販売しているのはここだけで、剣道、なぎなた、銃剣道などの防具を扱っている。

少年剣士の活躍が話題になると、武の国、鹿児島を支える職人のきびしい目もとがゆるんだ。



面づくりは年期のいる作業



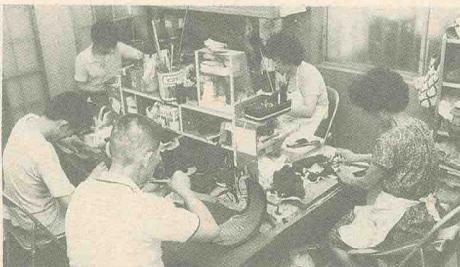
胸の胸の模様も一針ずつ刺しゅう



甲手づくりは技術の真価が問われる



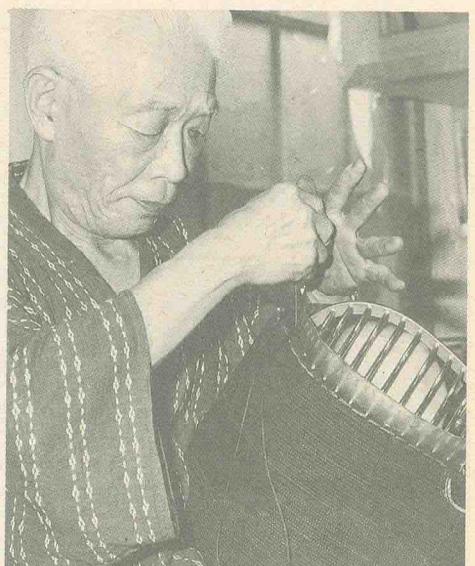
製造・修理とも県内各地から受注



仕事は、ほとんど手作業



子どもにも剣道を…という人がよく訪れる



居合い五段のご主人はこの道50年余り

編集後記

▼「市民フォト鹿児島」第10号をお届けします。

▼九月は敬老の月。各所で敬老の行事が計画されています。お年寄りを歌やおどりで慰めて差し上げようというものから、お年寄りも一緒にになって踊ったり歌ったりの積極参加型まで。さまざまな企画があるようですが、みんな真心と愛に満ちています。高齢化社会を迎えてか、勉強されるお年寄りも増えておられるようです。『晩年を、丸く仕上げる絵筆とり』正司

▼さて、今月は高校総体を特集しました。炎天下、鍛えぬかれた若者たちが技を競い、力の限りを尽くす姿のさわやかだったこと。皇太子殿下、同妃殿下、礼宮さまも猛暑のなかで、心からの拍手を送っておられました。

遠路参加した選手が「市民ぐるみの温かい鹿児島大会だった」と話していました。裏方さんも、そして市民の皆さんも、本当にありがとうございました。



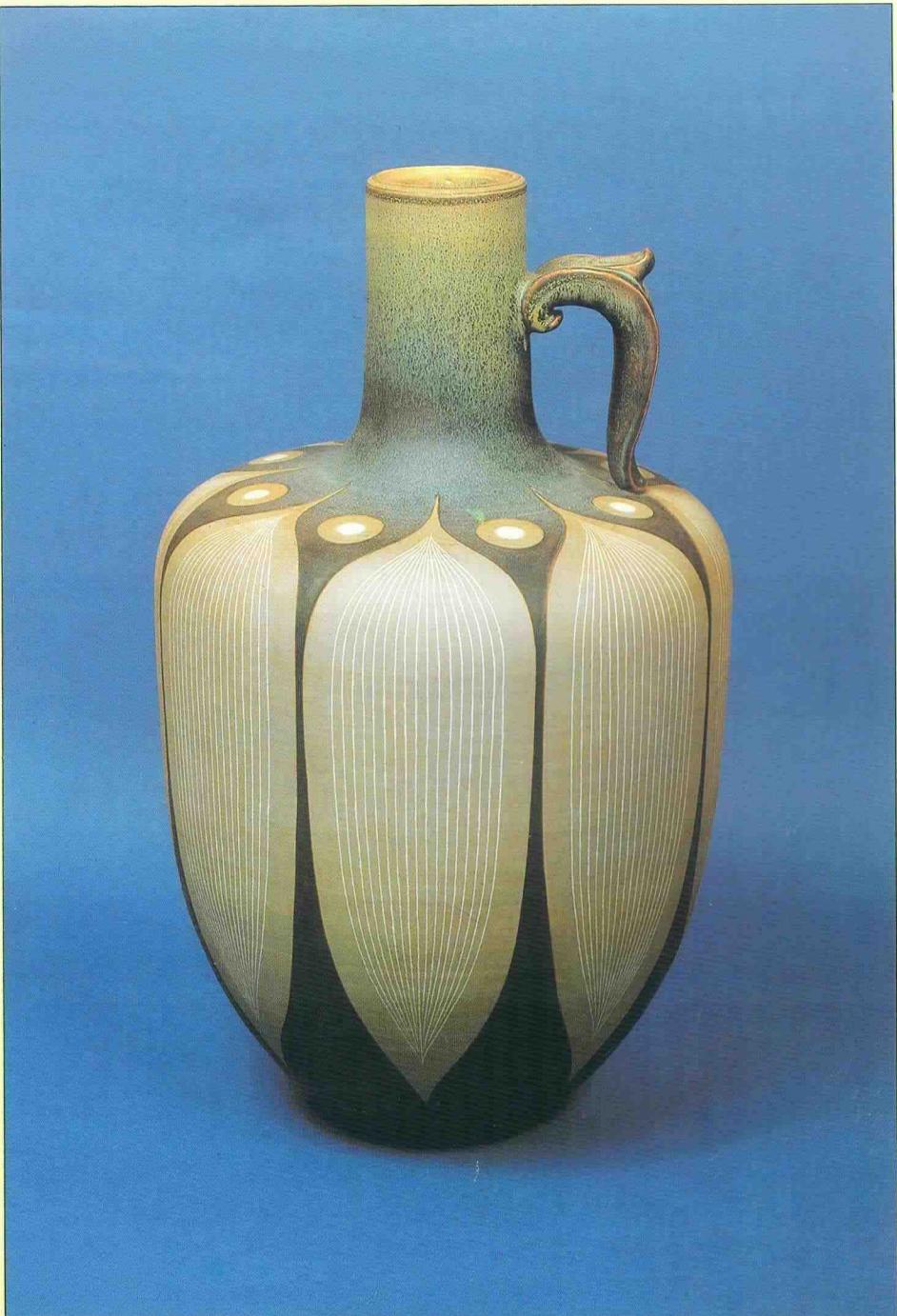
市立美術館

象嵌磁木の葉文花瓶

宮之原 謙

（作者）明治三十一年～昭和五十
二年。鹿児島市生まれ。日本画を
山内多門に学び、陶芸を二代宮川
香山に、その後は板谷波山に師
事。波山や富本憲吉に続く陶芸近
代化の旗手として昭和四年、帝展
初入選以来、文展、日展の審査員
を務めるなど活躍。昭和三十一年

には、象嵌を中心とした作品で日
本芸術院賞を受けた。技法は、象
嵌と彩磁に特色があり、建築家的に
整然とした構成的な形に
センスで計算された構築的な形に
端正で、気品のある独特の作風を
創りあげた。

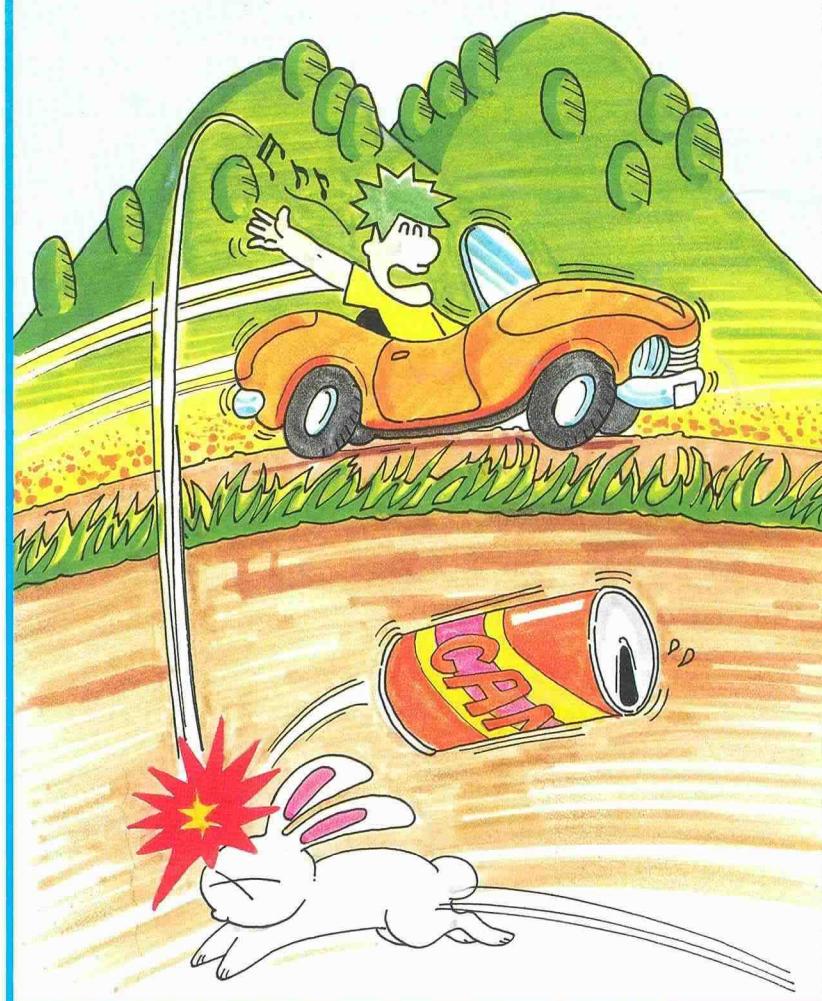


（解説）作者七十一歳、第十一回
新日本出品作。深彫りした笹の葉
を茶の彩土で象嵌し葉脈は白土で
線象嵌して、わらび手の耳をあし
らつた高さ五十㌢余りのほればれ
するような象嵌磁の名品である。

宮之原作品のほとんどについて
ただ一人助手を務め、また、厳し
い批評家でもあった初子夫人の言
葉によると、「七十歳を過ぎたら、
気ままに一人でたける窯が欲しい
と言つて、窯場の一隅に新しい窯
を築き、この花瓶が初めての作品
だつたが、日展の期日が迫つてい
て素焼をしている余裕もなく、艶
消しの釉薬をかけ本焼に体当たり
した。いくつか一緒に焼いたもの
のうち、「無暇」とか。それだけに、
作者にとつても愛着ひとしおの作
品であつたであろう。

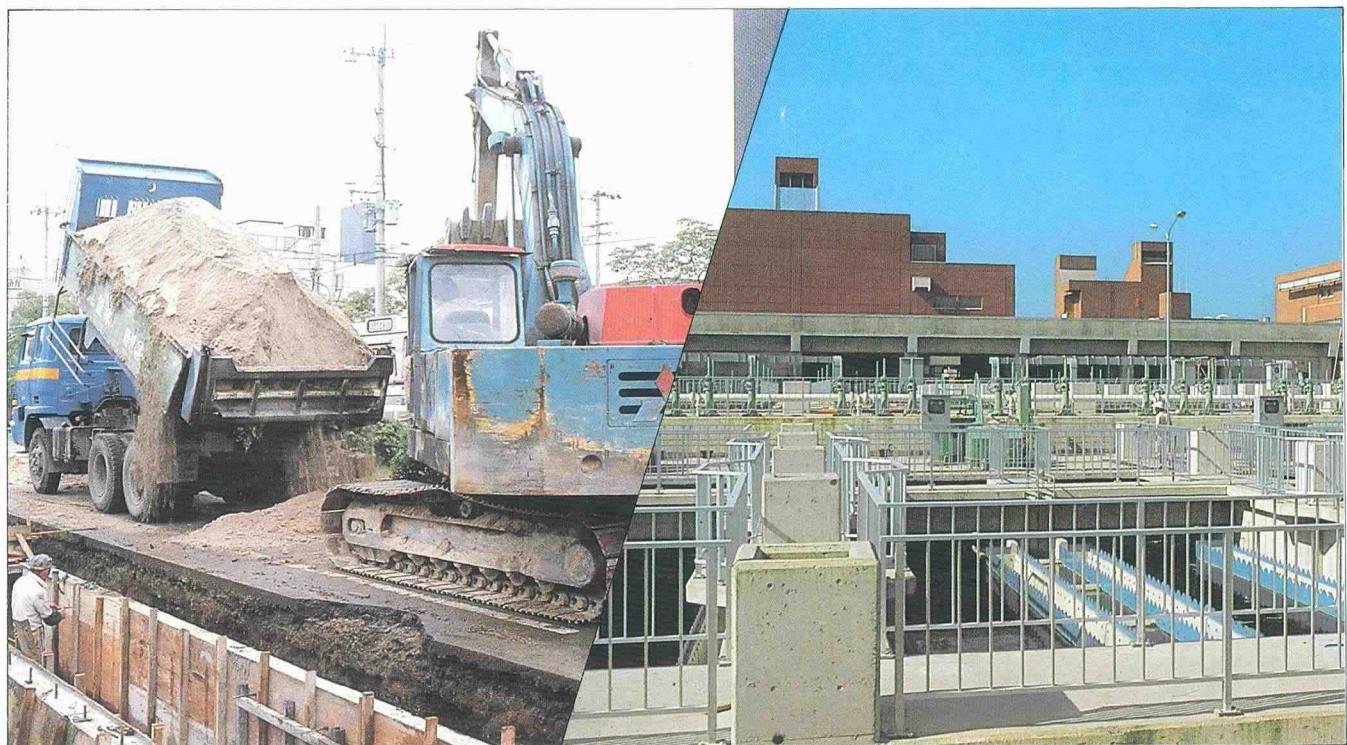
市立
美術館
館長
四
藏
典
夫





飲んだ後の
さわやかさを
まちの美しさにも……
やめよう！空かんの投げ捨て

町づくり 伸ばそう つなごう下水道



9月10日は「全国下水道促進デー」です